



ギガスマートWi-Fi

AR1344E

ユーザーマニュアル

このたびは、AR1344Eをご利用いただきまして、まことにありがとうございます。

- ご利用の前に、この「ユーザーマニュアル」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。



技術基準適合認証品

はじめに

本製品の説明

本製品は、NTT東日本株式会社が提供する光加入者回線終端装置ONU（Optical Network Unit）・ホームゲートウェイ等に接続することで、パソコン、スマートフォンやタブレットなどのデバイスを有線または無線でインターネット等に接続するためのメッシュ機能を有するWi-Fi装置です。

大容量・多台数通信に強いWi-Fi6（802.11ax）に対応

高画質な動画配信サービスなど大きなデータを扱うコンテンツや、たくさんのデバイスとの同時通信に強い、Wi-Fi6（IEEE802.11ax）に対応しています。

メッシュ機能に対応

メッシュ機能とは、複数のアクセスポイントが網のように繋がってひとつの大きなネットワークを構築する機能です。メッシュネットワークでは、ネットワークの管理を行うコントローラ（親機）とエージェント（子機）が連携し情報共有することで、最適なWi-Fiネットワークを自動構築します。また、メッシュネットワーク内のより安定した接続先を検知し、デバイスに切り替えを促すことが可能なので、家の中を移動しながらでも快適にWi-Fiを利用できます。

※メッシュ機能に対応したすべての機器との接続を保証するものではありません。

日本の主要IPv6サービスに対応

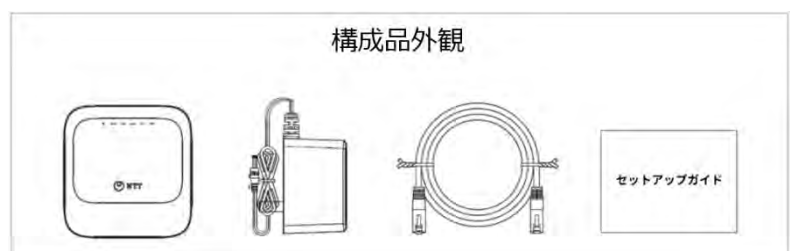
アクセス集中による影響が少ないIPv6高速インターネットをご利用いただけます。

動作確認済みサービスは、以下を参照してください。

VNE 事業者名	通信サービス名
株式会社朝日ネット	v6 コネクト（国内標準プロビジョニング方式）
アルテリア・ネットワークス株式会社	クロスパス
インターネットマルチフィード株式会社	transix
NTT ドコモビジネス株式会社	OCN パーチャルコネクト
株式会社 JPIX	v6 プラス
ビッグロブ株式会社	IPv6 オプション

構成品

- (1) 本体..... 1台
- (2) ACアダプタ..... 1個
- (3) LANケーブル..... 1本
- (4) セットアップガイド..... 1枚



本製品の初期設定状況（まとめ）

項目	初期設定内容	備考
IP アドレス（有線 LAN）	192.168.10.1	DHCP サーバ機能有効
WebUI 接続方法	ID : admin PW : (ランダム設定)	パスワードは製品底面のラベルをご覧ください。
無線設定	2.4GHz、5GHz ともに有効 WPA/WPA2-PSK (TKIP/AES)	バンドステアリング設定は無効
SSID	2.4GHz : NttMeshAP-XXXX-g 5GHz : NttMeshAP-XXXX-a	XXXX は MAC アドレス下 4 桁 製品底面のラベルをご覧ください。
暗号化キー	(ランダム設定)	製品底面のラベルをご覧ください。
WAN 動作モード	IPv4 over IPv6 (自動接続)	

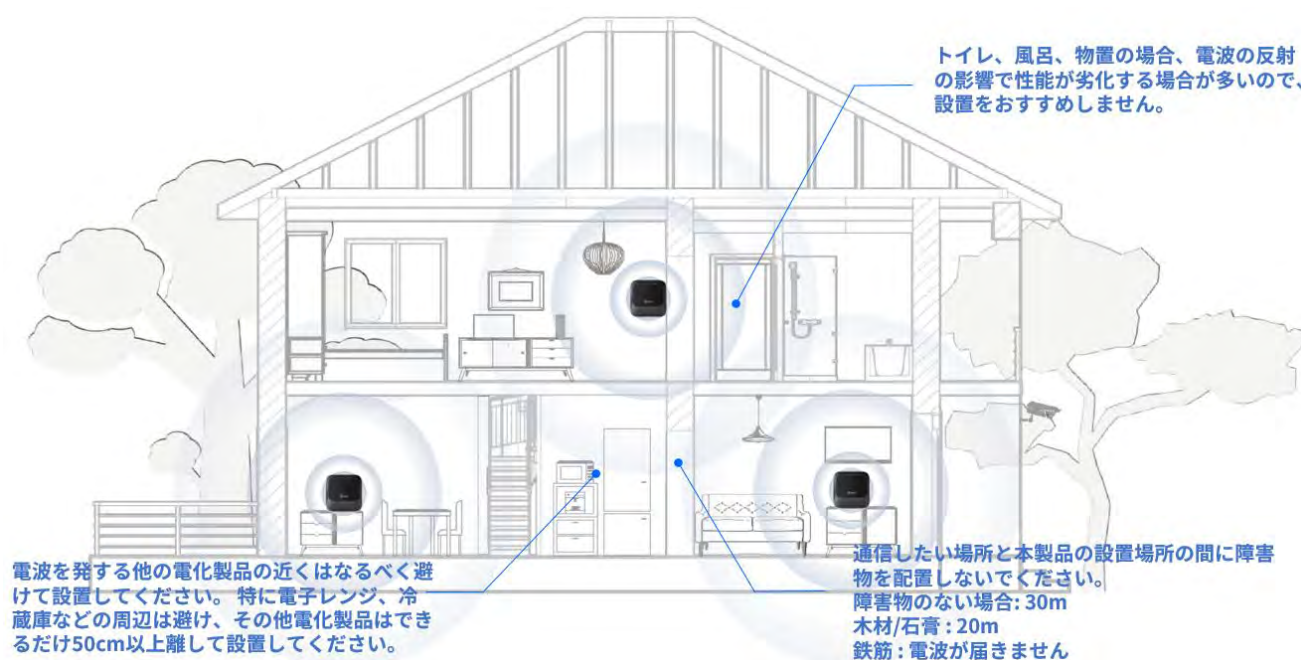
動作環境

Wi-Fiを快適にお使いいただくための注意点

Wi-Fi機能をご利用の際は、本製品の設置場所・設置方法などが、電波の届きやすさや通信速度などに影響を与えます。

Wi-Fi機能を快適にご利用いただくために、以下のような点に注意してください。

- ・電波を発する他の電化製品の近くにはなるべく避けて設置してください。特に電子レンジ、冷蔵庫などの周辺は避け、その他電化製品はできるだけ50cm以上離して設置してください。
- ・障害物に注意し、通信したい場所からは本製品を直接見通せるように設置する（途中経路に障害物を配置しない）
※とくに金属製の壁やパーティション、鉄筋/鉄骨入りの壁、金属網入りガラス、水分の多いもの（水槽、コンクリート壁）は電波を強く妨害するのでご注意ください。
- ・周囲を壁に囲まれた狭い場所（トイレ、風呂、物置等）に設置すると、電波の反射の影響で性能が劣化する場合があります。



最適な設置場所の推奨

* 本製品を高い場所に設置される場合は、据付に十分ご注意ください。落下により本製品が破損したり、他の物品の破損、人のケガなどにつながる恐れがあります。

* コントローラ（親機）の設置に当たっては、以下の点にご注意ください。

上位のONUまたはホームゲートウェイとコントローラ（親機）は必ず有線で接続してください。：ONU/ホームゲートウェイのLANポートと本製品の背面のLAN1/WANポート（青色）

* エージェント（子機）の設置に当たっては、以下の点にご注意ください。

- ・コントローラ（親機）の位置から、エージェント（子機）との間に障害物がなく、見通せる位置への設置を推奨します。
- ・コントローラ（親機）とエージェント（子機）を無線で接続する場合は、距離が近すぎても遠すぎても動作が不安定になります。必ず30センチメートル以上離すようにし、かつ5メートル以上離れないようにすることを推奨します。また、コントローラ（親機）の位置からなるべくエージェント（子機）が見えるように設置してください。見える場所にエージェント（子機）を設置できない際は、コントローラ（親機）とエージェント（子機）の間になるべく電波に影響を及ぼす電化製品や金属製の障害物、水槽等が無いように設置してください。
- ・コントローラ（親機）とエージェント（子機）を有線で接続する場合は、ネットワーク機器等を経由せず、LANケーブルで直接接続してください。メッシュWi-Fiでは、特殊な通信により機器の制御を行っていますが、ネットワーク機器の仕様によりこの通信が正常に行われなくなる恐れがあります。

設置例

以下に、いくつかのモデルケースにおける設置例と、そのポイントを示します。

ケースA：一方向に長い間取りの場合

A-1：コントローラ（親機）を間取り中央に設置できる場合

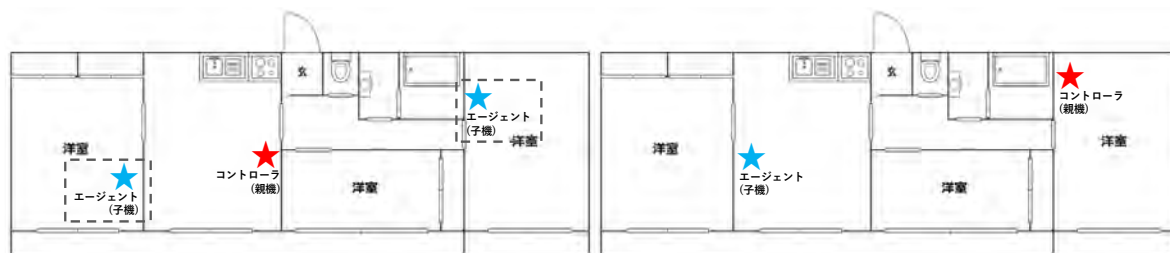
- ・広く通信エリアをカバーするために、可能であればコントローラ（親機）を間取りの中央付近に設置することを推奨します。

※住居の面積、壁の材質等にもよりますが、間取りの中心にコントローラ（親機）を設置することで住居全体をカバーできる場合もあります。設置場所を微調整しながら通信状況を確認することを推奨します。

- ・エージェント（子機）を設置する場合は、スマートフォンやパソコンなどのデバイスをよくお使いになるお部屋に設置することを推奨します。

A-2：コントローラ（親機）を間取りの端にしか設置できない場合

コントローラ（親機）と離れたお部屋にエージェント（子機）を設置することで、広い通信エリアをカバーすることが期待できます。



ケースA-1：（長い間取りの中央に親機）

ケースA-2：（長い間取りの端に親機）

ケースB：L型間取りの住居の場合

B-1：コントローラ（親機）をコーナー部付近に設置可能な場合

- ・下図のようなL字型の間取りの場合、両端のお部屋まで通信エリアをカバーすることが難しくなります。

両端のお部屋を見通せるコーナー部付近にコントローラ（親機）を設置することで、各方向への通信エリアを最大化できます。

※住居の面積、壁の材質等にもよりますが、コントローラ（親機）を設置することで住居全体をカバーできる場合もあります。設置場所を微調整しながら通信状況を確認することを推奨します。

- ・エージェント（子機）を設置する場合は、スマートフォンやパソコンなどのデバイスをよくお使いになるお部屋に設置することを推奨します。

B-2：コントローラ（親機）を端のお部屋にしか設置できない場合

- ・コントローラ（親機）が端のお部屋にしか設置できない場合、電波が届きにくいエリアをカバーするため、コーナー部付近にエージェント（子機）を設置することを推奨します。このとき、親機～子機間は、できるだけ見通せるような設置を推奨します。

※親機～子機間に障害物（壁や家具など）があると、電波が届きにくくなる場合があります。



ケースB-1：（L字型の中央部に親機）

ケースB-2：（L字型の端部に親機）

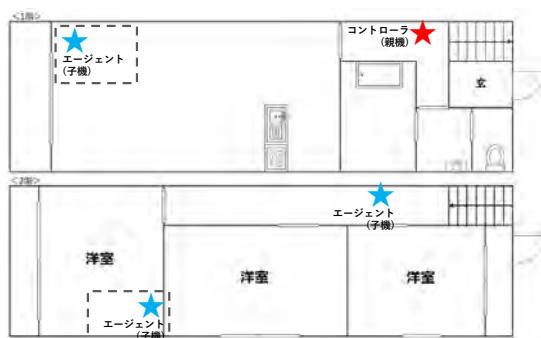
ケースC：2階建の住居の場合

C-1：コントローラ（親機）を階段付近に設置可能な場合

- ・2階建ての住居では、1階と2階の間で電波を効率よく中継するために、コントローラ（親機）を階段付近の開放的なエリアに設置することを推奨します。
- ・エージェント（子機）は通信が弱くなるお部屋や階に設置し、コントローラ（親機）の電波を効率よく補完できる場所に設置することを推奨します。

C-2：コントローラ（親機）を奥まったお部屋にしか設置できない場合

- ・コントローラ（親機）を奥まったお部屋にしか設置できない場合、同じ階の場合はエージェント（子機）をコントローラ（親機）から見通しの良い場所に、違う階に設置する場合は、コントローラ（親機）の真上または真下の位置に設置することを推奨します。
- ・木造家屋では天井や床を電波が比較的通過しやすいですが、鉄筋や軽量鉄骨構造の場合、電波が減衰しやすいため、エージェント（子機）の追加設置が必要になる場合があります。



ケースC-1：（2階建てで階段付近に親機）



ケースC-2：（2階建てで階段以外に親機）

Wi-Fiルータ本体とWi-Fi接続するときの対応デバイス

Wi-Fi機能に対応したパソコン、スマートフォン、タブレット、ゲーム機など

Wi-Fiルータを設定変更するときの対応デバイス・推奨ブラウザ

1-1 対応デバイス

パソコン、スマートフォン、タブレット

1-2 推奨ブラウザ

Google Chrome, Microsoft Edge

電波に関する注意

電波法の遵守

本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として技術基準適合証明を受けています。そのため、日本国内での使用時に無線局の免許は不要です。

1. 本製品は、日本国内専用です。海外での使用はできません。
2. 本製品は、屋内専用です。屋外での使用はできません。

製品の改造禁止

製品を分解または改造しないでください。違反した場合、法的な制裁を受ける可能性があります。
製品に貼付された認証ラベルを剥がさないでください。

使用制限

電波法により、W52、W53の帯域は屋外での使用が禁止されています。（法令で許可された場合を除く）
電子レンジの近く、強い磁場や静電気、電波障害が発生する場所、または製品の近くでは使用を避けてください。

電波干渉の注意

本製品が使用する2.4GHz帯（1～13チャンネル）の周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される移動体識別用構内無線局および免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下、「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに本製品の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生し、何かお困りのことが起きた場合には、裏表紙（53ページ）に記載の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

使用周波数	2.4GHz/5GHz
変調方式	DSSS/OFDM/OFDMA方式
想定干渉距離	40メートル以下
周波数変更の可否	全帯域を使用でき、「構内無線局」あるいは「特定小電力無線局」帯域を回避できる

無線LAN製品ご使用時のセキュリティに関する注意

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線 LAN アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- ・通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
メールの内容
等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

- ・不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LAN製品は、セキュリティに関する仕組みを持っていますので、その設定を行って製品を使用することで、上記問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することを推奨します。

出典：社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）「無線LANのセキュリティに関する注意事項 第1版」

暗号化の設定変更方法は、32ページの「[\[無線LAN\]-\[メインWi-Fi\]-\[Wi-Fi 5GHz/2.4GHz\]](#)」を参照してください。

安全上のご注意

ご使用前に「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載した内容は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

本製品は、屋内専用です。屋外での使用はできません。

【誤った取り扱いをすると】



警告 人が死亡または重傷を負う可能性があります。



注意 人が傷害を負ったり物的損害を発生する可能性があります。

【図記号の例】



記号は禁止行為であることを表しています。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。

(左図の場合は分解禁止)



記号は行為を強制したり指示する内容を表しています。図の中に具体的な指示内容が描かれています。

(左図の場合はACアダプタをコンセントから抜いてください)



警告

使用制限環境では…



禁止

無線機器使用制限区域では使用しない

航空機内や病院内など無線機器の使用を禁止された区域では、本製品の電源を切ってください。電化製品や医療機器に影響を与え、事故の原因となります。



禁止

医療機器や精密電化製品の近くでは使用しない

本製品は、高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電化製品や心臓ペースメーカなどの近くに設置したり、近くで使用したりしないでください。電化製品や心臓ペースメーカなどが誤動作するなどの原因となることがあります。

また、医療用電化製品の近くや病院内など、使用を制限された場所では使用しないでください。



禁止

高い安全性が要求される用途には使用しない

本製品を医療機器や高い安全性が要求される用途では使用しないでください。人が死亡または重傷を負う可能性があり、社会的に大きな混乱が発生する恐れがあります。

電源プラグや電源コードは…



禁止

ACアダプタのコードやプラグを傷つけない

コードの損傷は火災や感電の原因となります。このような事故を防ぐためには次のような注意事項を守ってください。

- ・コードやプラグを勝手に分解しない
- ・コードを無理に折り曲げない
- ・コードの上に物を置かない
- ・コード表面のビニールが溶けるのを防ぐため、電熱製品に近づけない
- ・ACアダプタを抜くときはコードを無理に引っ張らず、プラグを持って抜く



禁止

ACアダプタの取り扱い注意

本製品の電源には必ず付属の専用ACアダプタを使用し、他製品のACアダプタを使用したり、付属のACアダプタを他の製品に使用したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

また、ACアダプタに物を載せたり、掛けたり、覆ったりしないでください。過熱状態となり、火災・感電の原因となることがあります。



禁止

雷が鳴っているときは本体やACアダプタ、プラグに触らない

落雷の恐れのあるときは、ACアダプタ（電源プラグ）を電源コンセントから抜いてご使用をお控えください。

落雷時に、火災、感電、故障の原因となることがあります。

雷が鳴りだしたら、電源コードに触れたり、周辺機器の接続をしたりしないでください。落雷による感電の原因となります。



禁止

タコ足配線をしない

コンセントや配線器具の定格を超えるようなタコ足配線をしないでください。



接触禁止

ぬれた手でACアダプタを触らない

感電の原因となります。



電圧
AC100V

交流100V以外では使用しない

本製品は日本国内用です。交流100ボルト（AC100V）の家庭用電源コンセントにつないでください。他の電源電圧を使うと火災や感電の危険が生じます。



注意

ACアダプタはプラグを完全に差し込む

ACアダプタは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと感電や発熱による火災の原因となります。

ご使用の際は…



水ぬれ禁止

内部に水が入らないようにする

火災や感電の原因となります。

- ・本製品の周辺には水が入っている容器を置かない
- ・浴室などの水のかかるおそれのある場所では使用しない
- ・窓際に置く場合は雨や雪、結露に注意する



内部に金属類や燃えやすい物を入れない

火災や感電の原因となります。



異常が起きたときは使用をただちに中止する

火災や感電事故の原因となります。

以下の場合、電源を外してACアダプタをコンセントから抜いた後、裏表紙（53ページ）に記載の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

- ・異音や異臭がする、煙が出ている時
- ・内部に水や異物が入った時
- ・正常に動かない時
- ・ACアダプタやプラグが壊れた時
- ・ACアダプタの一部が特に熱い時
- ・落下等により、本製品の外装が破損した時

お手入れの際は…



本体を分解しない

感電の原因および保証対象外となります。故障の場合は、裏表紙（53ページ）に記載の「お問い合わせ先」へご連絡ください。



感電事故を防ぐため、LANケーブルを本体へ接続したり外したり、本製品を移動するときには、必ずACアダプタをコンセントから抜いてください。



ACアダプタのプラグとコンセントの間のほごりは定期的に掃除をしてください。

湿気等で絶縁不良となり火災の原因となります。ACアダプタを抜き、乾いた布で拭いてください。



長期間ご使用にならない場合やお手入れの際にはACアダプタを抜いてください。



注意

設置や接続、移動の際は…



水のかかる場所への設置禁止

水のかかる場所で使用したり、水にぬらすなどして使用しないでください。

風呂場やシャワー室などでは使用しないでください。

漏電して、火災・感電の原因となります。



水平で安定した場所に縦置きする

本製品は縦置き専用です。本製品を高い場所に設置される場合は、据付に十分ご注意ください。落下により本製品が破損したり、他の物品の破損、人のケガなどにつながる恐れがあります。



風通しの良い、涼しい場所に置く

本製品内部温度の上昇は動作異常や故障の原因となる場合がありますので、以下の内容をお守りください。

- ・床に接した面以外に10センチメートル以上の空間を確保する
- ・本製品の放熱用の穴をふさがない
- ・暖房器具から離す、直射日光を当てない



禁止

湿気やほこりが多い場所、油煙や水蒸気のある所には置かない

火災や感電の原因となる場合があります。



必ず守る

他の電気製品とつないで使用する場合は、接続製品の安全事項もお守りください。

製品に損傷を与える場合があります。



高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子製品や心臓ペースメーカーなどの近くに設置したり、近くで使用したりしないでください。



VCCI-B

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。ユーザーマニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。

目次

はじめに.....	2
本製品の説明.....	2
動作環境.....	4
電波に関する注意.....	7
無線LAN製品ご使用時のセキュリティに関する注意.....	8
安全上のご注意.....	9
警告.....	9
注意.....	11
目次.....	13
第1章 本製品の基本的な無線設定.....	15
はじめに.....	15
各種デバイスをWi-Fiに接続する方法.....	25
第2章 本製品の各種設定.....	27
WebUIのご利用方法.....	27
ログイン.....	27
ステータス.....	28
無線LAN.....	32
ネットワーク.....	33
<PPPoEをご利用の場合>.....	35
NAT.....	38
高度な設定.....	39
セキュリティ.....	40
管理.....	42
第3章 ご利用中困ったとき.....	48
Wi-Fi接続が不安定な場合.....	48
Wi-Fi接続が全くできない場合.....	49
第4章 製品仕様.....	50

主な仕様	50
LED仕様.....	51
第5章 各部の名称	52
第6章 その他	53
本書について	53
免責事項	53
商標・登録商標.....	53
お問い合わせ先	53

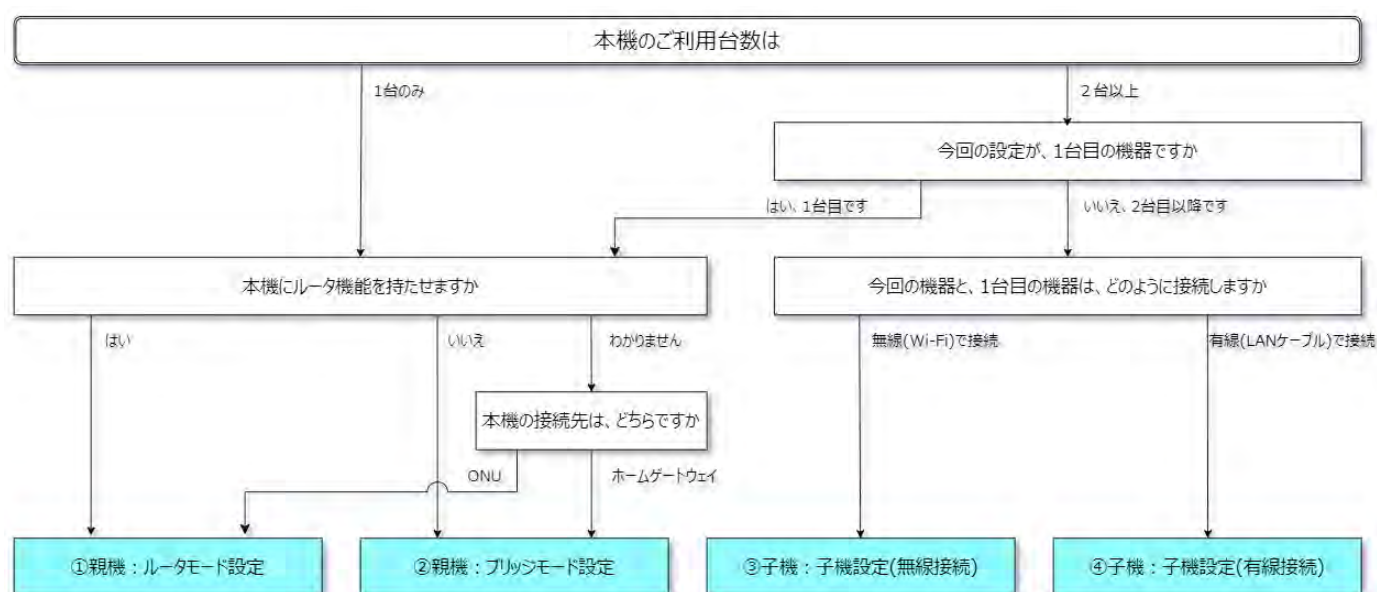
第1章 本製品の基本的な無線設定

はじめに

本製品は、Wi-Fi EasyMesh規格に準拠したメッシュ機能を搭載したWi-Fiルータです。本製品は、設定により「コントローラ（メッシュ親機）」としても、「エージェント（メッシュ子機）」としても、動作することができます。

また、本製品自身がインターネット接続を実施（ルータモード動作）することも、他のルータ製品に接続して利用（ブリッジモード動作）することもできます。

それぞれに設定方法が異なりますので、どの用途でご利用になるかを確認され、正しい設定を行ってください。



ルータ機能とは

インターネットを複数のスマートフォンやパソコンで使えるようにする機能です。

ルータ機能が必要なケース

1. 家にWi-Fiを使える機器がない場合
2. お持ちの機器でインターネットが不安定な場合

設置されている機器がONUかホームゲートウェイ(HGW)かを確認する方法

1. 機器に書かれている名前を見る
ONUの場合：一般的に「○○光ONU」「Optical Network Unit」などと表記されています。
HGWの場合：一般的に「ホームゲートウェイ」「Home Gateway」「HGW」と記載されています。
2. Wi-Fiランプを見る
「Wi-Fi」「2.4GHz」「5GHz」等のランプがあればHGWです。
3. LANポートの数を見る
一般的に差し込み口が1～2個ならONU、4個以上ならHGWです。
4. プロバイダーに聞く
インターネット回線の契約先に問い合わせ、「設置されている機器がONUかHGWか」をお問い合わせください。

【注意事項】

2台以上の本製品を設置する際には、下記注意事項をよくお読みになしてください。

- (1) ネットワーク内にある製品中の1台が、コントローラ（親機）として設定されていること
* 同じネットワーク内でコントローラ（親機）は1台のみ設定可能
- (2) ネットワーク内にあるコントローラ（親機）1台以外は、エージェント（子機）として設定を変更すること
* 同じネットワーク内でエージェント（子機）は最大4台設置可能
- (3) コントローラ（親機）は常にONU、ホームゲートウェイに有線でつなげること
- (4) コントローラ（親機）とエージェント（子機）を無線で接続する場合は、距離が近すぎても遠すぎても動作が不安定になります。必ず30センチメートル以上離すようにし、かつ5メートル以上離れないようにすることを推奨します。
- (5) 本製品がエージェント（子機）として動作しコントローラ（親機）と接続しているとき、本製品が送信するSSIDは接続しているコントローラ（親機）のSSIDとなります。本製品がエージェント（子機）として動作しコントローラ（親機）と接続されていない場合、コントローラ（親機）から離れすぎると通信できない可能性があります。

本製品の設定を変更するためのWebUI接続方法

（重要）本製品を正しく動作させるためにはWebUIでの設定が必要になります。以下の手順に従って設定してください。

- (1) パソコンを同梱のLANケーブルで本製品背面のLAN2ポート（黄色）に接続、またはWi-Fiで接続します。パソコンでWi-Fiを接続する方法は25ページの[\[パソコンとの接続方法\]](#)-[\[B.Wi-Fiで接続する方法\]](#)を参照してください。
- (2) ブラウザを開き、アドレスバーに次のIPアドレスを入力します。：192.168.10.1
* DHCPクライアントで設定されたパソコンであれば別途設定は必要ありませんが、パソコンのIPを手動で設定して使用する場合は、LAN設定のサブネット（セグメント）とIP範囲を参照して設定する必要があります。
- (3) ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名：admin
パスワード：本体底面のラベルに記載されたパスワード



- (4) 通信の盗聴や不正アクセスを防ぐために、定期的にパスワードを変更することを推奨します。
42ページの[\[管理\]](#)-[\[ルータパスワード\]](#)-[\[ルータパスワード設定\]](#)でパスワードを変更してください。
※以下の3つ以上を含む9文字以上32文字以内のパスワードに設定してください。
：アルファベット大文字、小文字、数字、特殊文字（[! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [] ^ _ ` { | } ~]）

* 10分間操作がない場合、自動的にログアウトされます。



① 親機：ルータモード設定（初期設定）

ONUの配下に直接設置する場合は、ルータモードでご利用ください。

- (1) 本製品にACアダプタを接続、本製品前面の電源ランプが緑色に点灯していることを確認します。



※ 初期モードで起動時のランプ状態

- (2) WebUIに接続して、[ネットワーク]-[モード]-[モード設定]-[WAN接続タイプ]が[ルータ]であることを確認します。

WebUIへの接続方法は16ページの[本製品の設定を変更するためのWebUI接続方法](#)を参照してください。

* WAN接続タイプを変更すると、全設定がリセットされます。接続が切れた場合は初期値のIPアドレス・ルータパスワードで再接続してください。



- (3) ご利用中のONUのLANポートと、本製品背面のLAN1/WANポート（青色）をLANケーブルで接続します。



- (4) 本製品前面の2.4G/5Gランプが緑色に点滅し、無線通信の準備が整うとWPSランプが緑色に点灯します。



※ルータモードで動作中のランプ状態（無線LAN接続）

- (5) 製品底面のラベル、WebUIに記載されているSSIDと暗号化キーを利用デバイスに入力して接続してください。
→SSID・暗号化キー等の無線設定を変更する場合は32ページの「[無線LAN\]-\[メインWi-Fi\]-\[Wi-Fi 5GHz/2.4GHz\]](#)」の「SSID・暗号化キーの説明」を参照してください。
→各種デバイスの設定方法は25ページの「[各種デバイスをWi-Fiに接続する方法](#)」を参照してください。

以上で、親機：ルータモードの設定は完了です。

② 親機：ブリッジモード設定

ホームゲートウェイの配下に設置する場合はブリッジモードでご利用ください。

※ホームゲートウェイと本製品を併用される場合は、必ずホームゲートウェイの配下（LAN側）に本製品を接続する構成としてください。本製品の配下にホームゲートウェイを接続する構成はしないでください。

- (1) 本製品にACアダプタを接続し、本製品前面の電源ランプが緑色に点灯していることを確認します。



※初期モードで起動時のランプ状態

- (2) WebUIに接続し、「ネットワーク」設定の「モード設定」「WAN接続タイプ」を「ブリッジ」に変更してください。
WebUIへの接続方法は16ページの[本製品の設定を変更するためのWebUI接続方法](#)を参照してください。

* WAN接続タイプを変更すると、全設定がリセットされます。接続が切れた場合は初期値のIPアドレス・ルータパスワードで再接続してください。
[ネットワーク]-[モード]-[WAN接続タイプ]-[ブリッジ]



(3) また、メッシュタイプがコントローラになっていることを確認し、「保存」をクリックしてください。

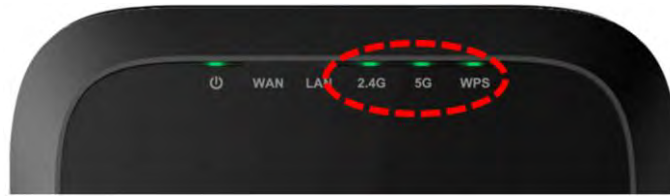
* メッシュタイプを変更すると、全設定がリセットされます。接続が切れた場合は初期値のIPアドレス・ルータパスワードで再接続してください。



(4) 使用中のホームゲートウェイのLANポートと本製品背面のLAN1/WANポート（青色）をLANケーブルで接続します。



- (5) 本製品前面の2.4G/5Gランプが緑色に点滅し、無線通信の準備が整うとWPSランプが緑色に点灯します。



※ブリッジ-コントローラモードで動作中のランプ状態（無線LAN接続）

- (6) 製品底面のラベル、WebUIに記載されているSSIDと暗号化キーを利用デバイスに入力して接続してください。
→SSID・暗号化キー等の無線設定を変更する場合は32ページの「[無線LAN\]-\[メインWi-Fi\]-\[Wi-Fi 5GHz/2.4GHz\]](#)」の「SSID・暗号化キーの説明」を参照してください。
→各種デバイスの設定方法は25ページの「[各種デバイスをWi-Fiに接続する方法](#)」を参照してください

以上で、親機：ブリッジモードの設定は完了です。

【注意】ブリッジモードでの設定後、再度WebUIに接続する場合は、アクセス先のIPアドレスにご注意ください。

本製品をブリッジモードで設定すると、本製品のIPアドレスはDHCP(自動設定)となります。改めて本製品のWebUIに接続される場合には、本製品に設定されたIPアドレスを確認する必要があります。

＜本製品に設定されたIPアドレスの確認方法＞

(1)ホームゲートウェイに接続されている場合

パソコン等で、ホームゲートウェイのWebUIに接続いただき、「情報」→「DHCPv4サーバ払い出し状況」にて、本製品のMACアドレスに対して払い出された「IPv4アドレス」をご確認ください。

詳しくは、ホームゲートウェイの取扱説明書または機能詳細ガイドをご覧ください。

IPv4アドレス/マスク長	MACアドレス	リース時間
192.168.1.2/24		

※本製品のMACアドレスに対応するエントリーをお探ください

※ホームゲートウェイの確認画面例(RX-601KIの場合)

(2)その他のルータ等に接続されている場合

DHCPサーバの払い出し状況の確認方法をお手持ちのルータ等の取扱説明書等でご確認ください。

(3)ホームゲートウェイ・その他ルータ等が接続されていない場合

初期値IPアドレス(192.168.10.1)でアクセスが可能です。

IPアドレスが分からない場合は、本製品のWAN/LAN1ポート（青色）、LAN2ポート（黄色）からLANケーブルを取り外した状態でリセットボタンを押し、本製品の再起動後に、LAN2ポート（黄色）に直接設定用パソコンだけを接続し、初期値IPアドレス(192.168.10.1)でアクセスしてください。

③ 子機：子機設定（無線接続）

- (1) 本製品にACアダプタを接続し、本製品前面の電源ランプが緑色に点灯していることを確認します。



※初期モードで起動時のランプ状態

- (2) WebUIに接続し、「ネットワーク」設定の「モード設定」「WAN接続タイプ」を「ブリッジ」に変更してください。
WebUIへの接続方法は16ページの[本製品の設定を変更するためのWebUI接続方法](#)を参照してください。
* WAN接続タイプを変更すると、全設定がリセットされます。接続が切れた場合は初期値のIPアドレス・ルータパスワードで再接続してください。
[ネットワーク]-[モード]-[WAN接続タイプ]-[ブリッジ]



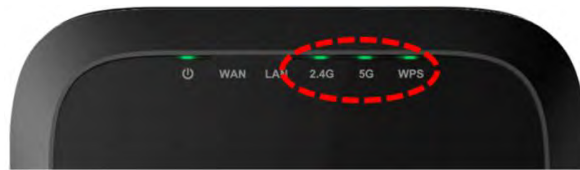
- (3) メッシュタイプをコントローラからエージェントに変更し、「保存」をクリックしてください。
* メッシュタイプを変更すると、全設定がリセットされます。接続が切れた場合は初期値のIPアドレス・ルータパスワードで再接続してください。



- (4) コントローラ（親機）のWPSボタンを押し、エージェント（子機）として設定した製品のWPSボタンも押します。



- (5) 本製品前面の2.4G/5Gランプが緑色に点滅し、無線通信の準備が整うとWPSランプが緑色に点灯します。



※ブリッジエージェントモードで動作中のランプ状態（無線LAN接続）

- (6) 2台構成のコントローラ（親機）の製品底面のラベル、WebUIに記載されているSSIDと暗号化キーを利用デバイスに入力して接続してください。5分以上たってもWPSランプが緑色に点灯しない場合は（4）に戻って繰り返してください。

→コントローラ（親機）のSSID・暗号化キー等の無線設定を変更する場合はコントローラ（親機）のWebUIに接続する必要があります。17ページの「[①親機：ルータモード設定](#)」か、18ページの「[②親機：ブリッジモード設定](#)」を参照してください。

→各種デバイスの設定方法は25ページの「[各種デバイスをWi-Fiに接続する方法](#)」を参照してください。

* 2台以上のエージェント（子機）をメッシュ構成する場合は、コントローラ（親機）との接続を1台ずつ行ってください。
（コントローラ+エージェント①の接続完了後コントローラ+エージェント②を接続）

以上で、子機：無線接続の設定は完了です。

④ 子機：子機設定（有線接続）

- (1) 本製品にACアダプタを接続し、本製品前面の電源ランプが緑色に点灯していることを確認します。



※初期モードで起動時のランプ状態

- (2) WebUIに接続し、「ネットワーク」設定の「モード設定」「WAN接続タイプ」を「ブリッジ」に変更してください。

WebUIへの接続方法は16ページの[本製品の設定を変更するためのWebUI接続方法](#)を参照してください。

* WAN接続タイプを変更すると、全設定がリセットされます。接続が切れた場合は初期値のIPアドレス・ルータパスワードで再接続してください。
[ネットワーク]-[モード]-[WAN接続タイプ]-[ブリッジ]

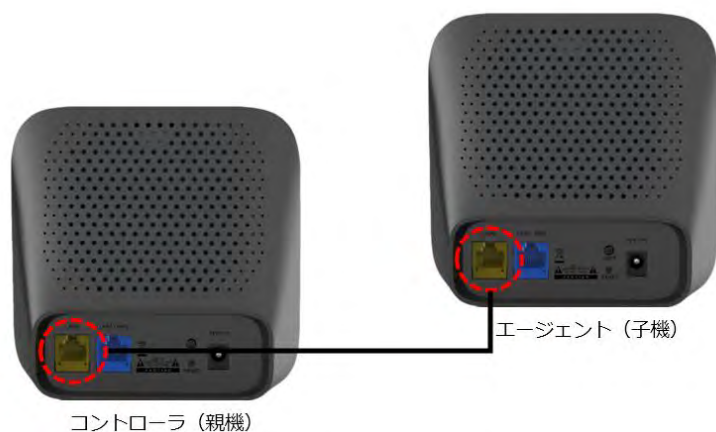


(3) メッシュタイプをコントローラからエージェントに変更し、「保存」をクリックしてください。

* メッシュタイプを変更すると、全設定がリセットされます。接続が切れた場合は初期値のIPアドレス・ルータパスワードで再接続してください。



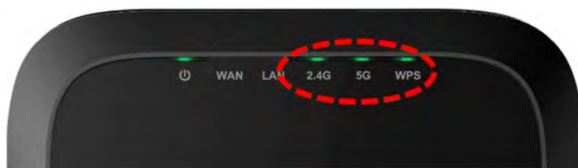
(4) コントローラ（親機）と本製品背面のLAN2ポート（黄色）をLANケーブルで接続します。



コントローラ（親機）とエージェント（子機）をLANケーブルで接続する場合は、ネットワーク機器等を経由せず、LANケーブルで直接接

続してください。メッシュWi-Fiでは、特殊な通信により機器の制御を行っていますが、ネットワーク機器の仕様によりこの通信が正常に行われなくなる恐れがあります。

- (5) 本製品前面の2.4G/5Gランプが緑色に点滅し、無線通信の準備が整うとWPSランプが緑色に点灯します。



※ブリッジエージェントモードで動作中のランプ状態（無線LAN接続）

- (6) 2台構成のコントローラ（親機）の製品底面のラベル、WebUIに記載されているSSIDと暗号化キーを利用デバイスに入力して接続してください。

→コントローラ（親機）のSSID・暗号化キー等の無線設定を変更する場合はコントローラ（親機）のWebUIに接続する必要があります。17ページの「[①親機：ルータモード設定](#)」か、18ページの「[②親機：ブリッジモード設定](#)」を参照してください。

→各種デバイスの設定方法は25ページの「[各種デバイスをWi-Fiに接続する方法](#)」を参照してください。

以上で、子機：有線接続の設定は完了です。

各種デバイスをWi-Fiに接続する方法

対応製品

本製品は、Wi-Fi Allianceの認定を受けています。

同じくWi-Fi Allianceの認定を受けた製品を接続することが可能です。

各製品の設定方法は、各製品のマニュアル等をご確認ください。

スマートフォン、タブレットとの接続方法

スマートフォン、タブレットとの接続方法について説明します。

以下の説明に従って、設定してください。

※接続する際、インターネットサービスによってはユーザー名、パスワードなどを設定する必要がありますので、あらかじめプロバイダーから提供された書類などをご準備ください。詳しくは35ページの<PPPoEをご利用の場合>を参照してください。

- ① スマートフォン、タブレットの電源をONにします。
- ② スマートフォン、タブレットの「設定」を選択し、設定画面を表示します。
- ③ 「Wi-Fi」を選択します。
- ④ 本製品底面のラベルに記載されたSSIDをリストから選択します。
- ⑤ 本製品底面のラベルに記載された暗号化キーを入力し、「接続」をタップします。
- ⑥ インターネットに接続し、スマートフォン、タブレットの接続を確認します。

※現在設定中のSSID、暗号化キーは、WebUIから確認ができます。詳しくは32ページの「[\[無線LAN\]-\[メインWi-Fi\]-\[Wi-Fi 5GHz/2.4GHz\]](#)」を参照してください。



Android OSの場合（例）



iOSの場合（例）

パソコンとの接続方法

パソコンとの接続方法には「A.有線（LANケーブル）で接続する方法」と、「B.Wi-Fiで接続する方法」があります。

こちらでは主な接続例についてご説明します。

なお、パソコン側の操作の詳細については、パソコンのマニュアル等を参照してください。

A.有線（LANケーブル）で接続する方法

- ① パソコンと本製品背面にあるLAN2ポート（黄色）をLANケーブルでつなぎます。
- ② パソコンの電源をONにします。
- ③ パソコンの接続を確認します。
- ④ インターネットに接続できるか確認してください。



B.Wi-Fiで接続する方法（Windows10,11の場合）

B-1 SSID、暗号化キーを入力する方法

- ①パソコンの電源をONにします。
- ②タスクトレイにあるネットワークアイコンをクリックします。
- ③ネットワーク一覧の中から本製品底面に貼ってあるラベルに記載されたSSIDをクリックし、[接続] をクリックします。
- ④本製品底面に貼ってあるラベルに記載された暗号化キーを入力します。
- ⑤ネットワークリストから本製品SSIDの下に「接続済み」の表示がされたか確認します。
- ⑥インターネットに接続し、パソコンの接続を確認します。



B-2 WPS機能を使って接続する方法

- ①パソコンの電源をONにします。
 - ②B-1④での設定画面上にルータ側のボタンを押下する案内が出たら本製品背面の WPSボタンを押します。
（本製品前面のWPSランプが点滅します。）
 - ③WPSボタンから手を放し、本製品前面のWPSランプが点滅から点灯に変わったらインターネットに接続し、パソコンの接続を確認します。
- ※WPSボタンの押下後は、接続が完了するまで各種設定を変更しないでください。設定を変更すると接続が完了できない場合があります。



第2章 本製品の各種設定

WebUIのご利用方法

本製品はWebUIを使って様々な設定を行うことができます。

本章では、各機能の設定方法について説明します。

WebUIをご利用になる際はパソコンを同梱のLANケーブルで本製品背面のLANポート（黄色）に接続してください。

ログイン

次の手順に従ってWebUI URLに接続し、ユーザー名とパスワードを入力してください。

- (1) パソコンを同梱のLANケーブルで本製品背面のLAN2ポート（黄色）に接続、またはWi-Fiで接続します。パソコンでWi-Fiを接続する方法は25ページの[\[パソコンとの接続方法\]](#)-[\[B. Wi-Fiで接続する方法\]](#)を参照してください。
- (2) ブラウザを開き、アドレスバーに次のIPアドレスを入力します。：192.168.10.1
* DHCPクライアントで設定されたパソコンであれば別途設定は必要ありませんが、パソコンのIPを手動で設定して使用する場合は、LAN設定のサブネット（セグメント）とIP範囲を参照して設定する必要があります。
- (3) ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名：admin
パスワード：本体底面のラベルに記載されたパスワード



- (4) 通信の盗聴や不正アクセスを防ぐために、定期的にパスワードを変更することを推奨します。
42ページの[\[管理\]](#)-[\[ルータパスワード\]](#)-[\[ルータパスワード設定\]](#)でパスワードを変更してください。
※以下の3つ以上を含む9文字以上32文字以内のパスワードに設定してください。
：アルファベット大文字、小文字、数字、特殊文字（[! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [] ^ _ ` { | } ~])
* ログイン後、10分間操作がない場合、自動的にログアウトされます。

ステータス

ステータスでは製品の状態を確認することができます。

[ステータス]-[ダッシュボード]

ダッシュボードは、本製品全体の状態を一目で確認できるメイン画面です。

- ① WebUI画面に表示される言語を選択できます。
- ② 現在インターネットに接続されているか確認できます。（オンライン：接続、オフライン：未接続）
- ③ 本製品の基本情報のステータスを確認できます。

現地時間：[管理]-[NTP（Network Time Protocol）]で設定されているタイムゾーンの時間が表示されます。

システム稼働時間：本製品が稼働（電源ON）してから経過した時間を表示します。（日=D、時間=H、分=M、秒=S）

CPU使用率：本製品のCPU使用量をパーセンテージで表示します。

メモリ使用率：本製品のメモリ使用量をパーセンテージで表示します。

- ④ 本製品のWi-Fi情報を確認できます。

2.4GHzと5GHz情報：各SSIDを確認できます。また、QRコードをスキャンすることでWi-Fiに接続できます。一般的な宅内環境では5Gを選択してご利用することを推奨します。

バンドステアリング：接続周波数帯の自動切換機能で、初期値は無効になっています。

メッシュ：本製品がコントローラ（親機）で設定されているかエージェント（子機）で設定されているか確認できます。

- ⑤ 本製品の端末基本情報を確認できます。

シリアル番号

モデル

ソフトウェアバージョン

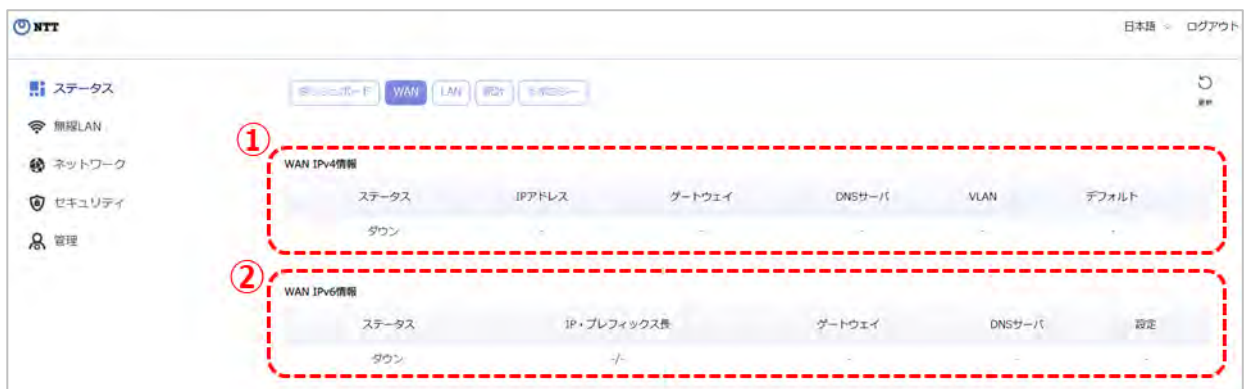
MACアドレス



[ステータス]-[WAN]

WAN（広域ネットワーク）の接続情報を確認することができます。

- ① WAN IPv4情報：WAN側のIPv4基本状態情報
ステータス：アップ（接続）、ダウン（未接続）の表示
IPアドレス：WAN側に割り当てられたIPv4のIPアドレス
ゲートウェイ：WAN側に割り当てられたIPv4のゲートウェイ
DNSサーバ：WAN側に割り当てられたIPv4のDNSサーバ
VLAN：WAN側に割り当てられたIPv4のVLAN
デフォルト：IPv4通信状態
「Y」=IPv4 Addressが正常取得されてIPv4通信ができる状態
「-」=IPv4 Addressが正常取得されず、IPv4通信ができない状態
- ② WAN IPv6情報：WAN側のIPv6基本状態情報
ステータス：Up（接続）、Down（未接続）の表示
IP・プレフィックス長：IPv6のプレフィックスの長さをビット数で表示
ゲートウェイ：WAN側に割り当てられたIPv6のゲートウェイ
DNSサーバ：WAN側に割り当てられたIPv6のDNSサーバ
設定：設定モード（RA/PD）



[ステータス]-[LAN]

LAN（内部ネットワーク）は、自宅やオフィスの中にあるネットワークのことを指します。この画面では、自宅やオフィス内で本製品に接続されたすべてのデバイス（スマートフォン、タブレット、パソコンなど）を確認できます。どのデバイスがネットワークを使っているか、また、そのデバイスの動作状態もこちらで確認できます。

- ① LAN IPv4情報：LAN側に設定されたIPv4基本状態情報
IPアドレス：LAN側に設定されたIPv4のIPアドレス
DHCPサーバ：LAN側に設定されたIPv4のDHCPサーバ
Start IP：LAN側に設定されたIPv4のスタートIP
クライアント数：LAN側に設定されたIPv4のクライアント数
- ② LAN IPv6情報：LAN側に設定されたIPv6基本状態情報
System Delegated Prefix：LAN側に設定されたIPv6のプレフィックス情報
DHCPサーバ：LAN側に設定されたIPv6のDHCPサーバ
- ③ 接続デバイス情報：LAN側に接続されているデバイス情報
番号：LAN側に接続されているデバイスの順番

ホスト：LAN側に接続されているデバイスのホスト名

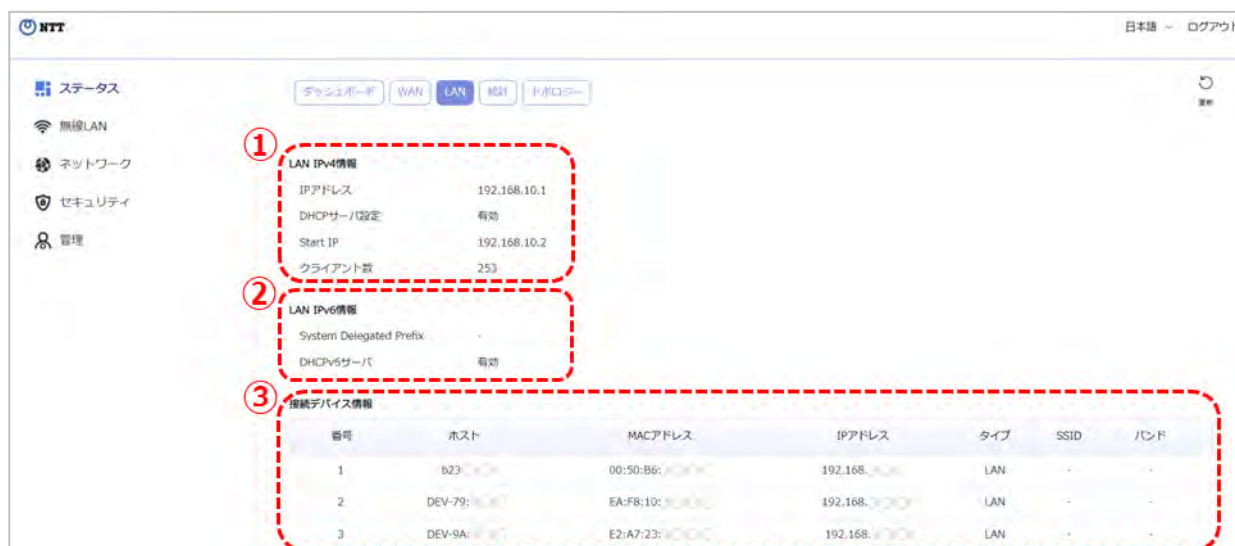
MACアドレス：LAN側に接続されているデバイスのMACアドレス

IPアドレス：LAN側に接続されているデバイスに割り当てられたIPアドレス

タイプ：LAN側に接続されているデバイスの接続方式（LAN・Wi-Fi）

SSID：Wi-Fi接続時のSSID

バンド：Wi-Fi接続時のバンド



[ステータス]-[統計]

統計（トラフィック統計）は、ネットワークのデータ使用状況を各インターフェース（WAN、LAN、Wi-Fi2.4GHz、Wi-Fi5GHz）ごとにリアルタイムで確認できる機能です。

① 受信データ

インターフェース：有線（WAN、LAN）、無線（5GHz、2.4GHz）

Bytes：転送されたデータの合計量（バイト単位）

Packets：送受信されたパケットの数

エラー：通信中に発生したエラーの回数

Drop：処理されずに破棄されたパケットの数

FIFOオーバーフロー：「First-In, First-Out」の略で、ネットワークバッファがいっぱいになり、最初に入ったデータが処理されずに破棄された回数

Frameエラー：フレーミングエラーの数

Compressed：圧縮されて転送されたデータの量

マルチキャスト：マルチキャスト通信に使用されたパケットの数

② 送信データ

インターフェース：有線（WAN、LAN）、無線（5GHz、2.4GHz）

Bytes：転送されたデータの合計量（バイト単位）

Packets：送受信されたパケットの数

エラー：通信中に発生したエラーの回数

Drop：処理されずに破棄されたパケットの数

FIFOオーバーフロー：「First-In, First-Out」の略で、ネットワークバッファがいっぱいになり、最初に入ったデータが処理されずに破棄された回数

Colls：ネットワーク通信において発生したコリジョン（データ衝突）の回数

Compressed：圧縮されて転送されたデータの量

マルチキャスト：マルチキャスト通信に使用されたパケットの数

NTT 日本語 ログアウト

ステータス

無線LAN

ネットワーク

セキュリティ

管理

ダッシュボード WAN LAN 統計 トポロジー

1 受信データ

インターフェース	Bytes	Packets	エラー	Drop	FIFOオーバーフロー	Frameエラー	Compressed	マルチキャスト
WAN (Disconnected)	0	0	0	0	0	0	0	0
LAN (100Mbps, Full)	704343	7916	0	76	0	0	0	642
Wi-Fi 5G	68885	775	0	15	0	0	0	91
Wi-Fi 2.4G	345750	2607	0	0	0	10767823	0	0

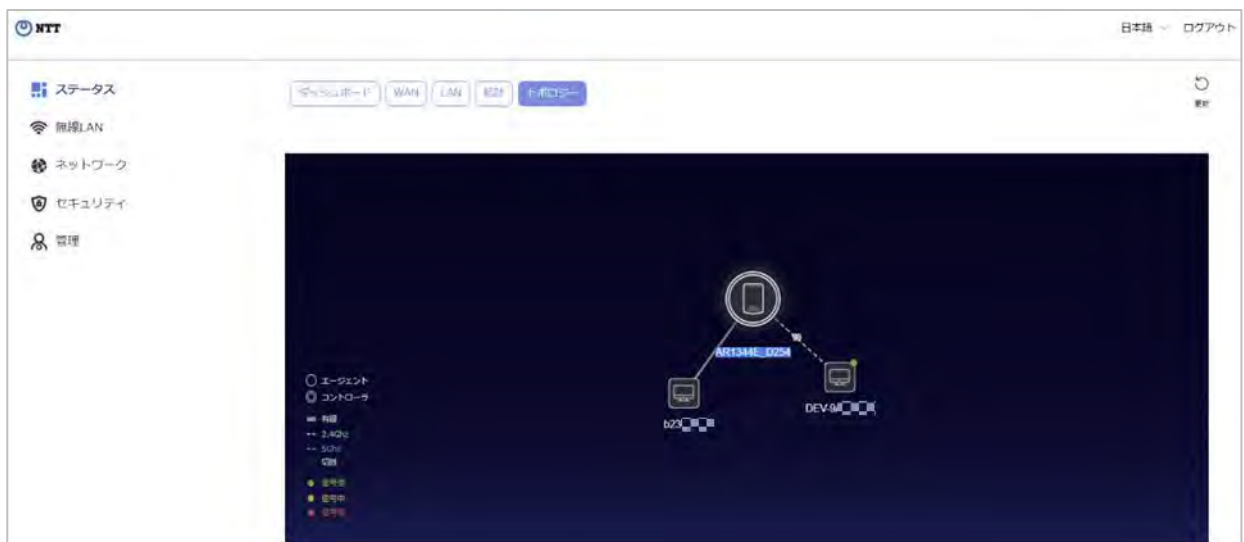
2 送信データ

インターフェース	Bytes	Packets	エラー	Drop	FIFOオーバーフロー	Colls	Compressed	マルチキャスト
WAN (Disconnected)	0	0	0	0	0	0	0	0
LAN (100Mbps, Full)	15.09 MiB	15840	0	0	0	0	0	0
Wi-Fi 5G	31.48 MiB	287160	0	351	0	0	0	0
Wi-Fi 2.4G	34.39 MiB	288870	16	0	0	0	0	0

[ステータス]-[トポロジー]

トポロジーとは、ネットワークの構成を視覚的に表示する機能です。本製品と接続されたデバイスの関係を図で表し、ネットワーク全体の構成を確認できます。

※トポロジー表示機能は、無線接続デバイスの帰属先を確認するためのものです。有線接続デバイスについては、トポロジー表示上の接続構成と、実際の物理的な接続構成が異なる場合があります。また、トポロジーに表示される本製品のMACアドレス情報はラベル上の無線MAC情報と異なるので、接続された機器を知りたい場合はシリアルナンバーにて対象機器を確認してください。



無線LAN

無線LAN（Wi-Fi）の設定をすることができます。

※無線LAN（Wi-Fi）の設定保存後ポップアップが消えるまで他の操作や画面更新をしないでください。

[無線LAN]-[メインWi-Fi]-[Wi-Fi5GHz/2.4GHz]

5GHz帯域は、高速なインターネット接続を提供します。高解像度の動画ストリーミングやオンラインゲームなど、データ量が多いコンテンツを利用する際に適しています。ただし、電波が届く範囲は2.4GHzに比べて狭いため、本製品から離れた場所では信号が弱くなることがあります。

2.4GHzは、5GHzに比べて壁や障害物の影響を受けにくい、より広い範囲で安定した接続を提供します。ただし、他の家電製品（例えば電子レンジ）と電波が干渉することがあるため、接続が遅くなる場合もあります。

Wi-Fi利用：Wi-Fi機能の有効・無効設定

SSID：Wi-Fiに接続するための固有ID

SSIDブロードキャスト：SSID検索機能（有効：検索可能、無効：検索不可能）

暗号化：無線LANの暗号化方式は次の4つの方式に対応しています。

WPA/WPA2-PSK（TKIP/AES）

WPA2-PSK（AES）

WPA2-PSK/WPA3-SAE（AES） * WPA3-Personal（SAE）はWPS機能に対応していません。

WPA3-SAE（AES） * WPA3-Personal（SAE）はWPS機能に対応していません。

暗号化キー：Wi-Fiに接続するための固有SSIDのパスワード

WPS：Wi-Fi Protected Setup（WPS）機能対応デバイスを簡単にネットワークに接続する機能

高速ローミング（802.11r）：IEEE802.11r規格による高速ローミング機能の設定。有効時、非対応端末は接続できない可能性があります。

WPAキー更新：WPA暗号化キーを一定時間ごとに更新するか設定

チャンネル：Wi-Fiの周波数チャンネル

送信出力：Wi-Fi信号の強度

帯域幅：Wi-Fiの周波数帯域の幅

※帯域幅を160MHzに設定した場合、DFSチャンネルの影響により、エージェントとクライアント間の通信が途切れる可能性があります。

802.11モード：Wi-Fiの通信規格

プライバシーセパレーター：同じネットワークに接続しているデバイス間の通信を制御

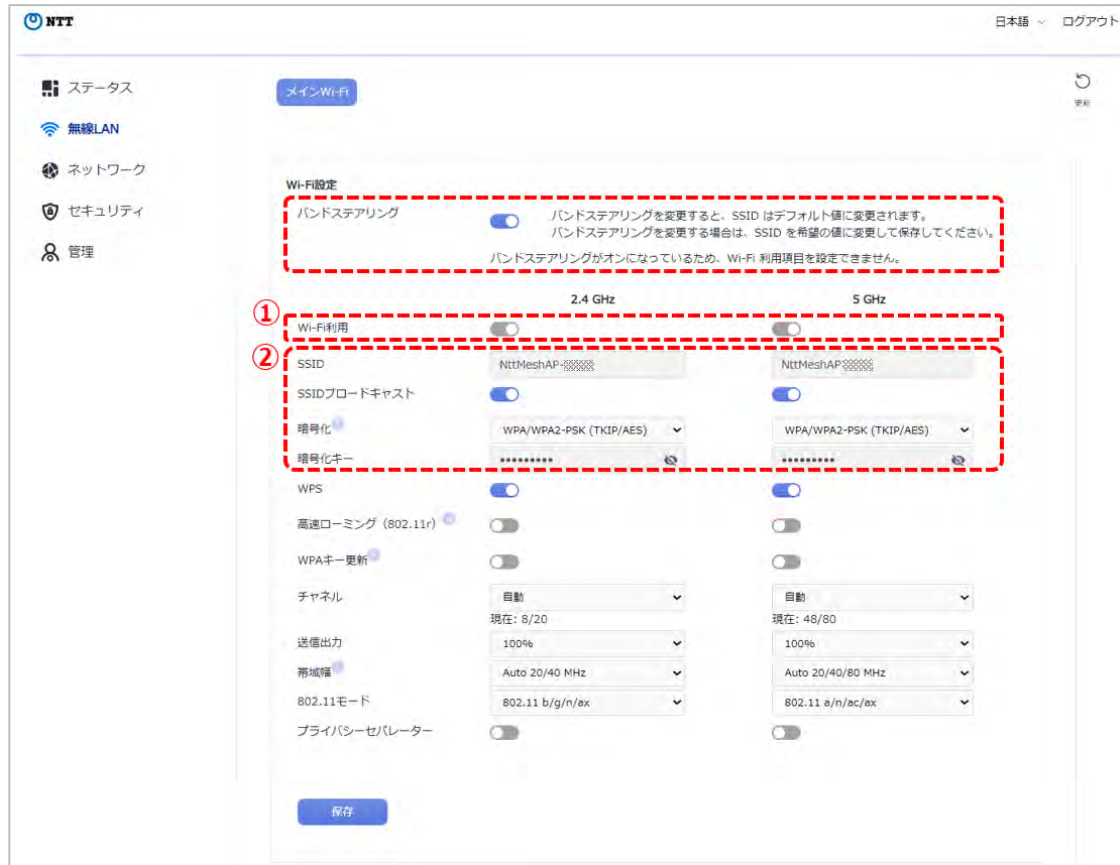
[無線LAN]-[メインWi-Fi]-[バンドステアリング]

バンドステアリングは、2種類の周波数帯（2.4GHzと5GHz）を自動で切り替える機能です。

- ① バンドステアリングを有効にすると、2.4GHzと5GHzそれぞれのWi-Fi状態を無効にできません。
- ② バンドステアリングを有効にすると、SSID、暗号化、暗号化キーを2.4GHzと5GHzで個別に設定できません。

※バンドステアリングの有効、無効を変更した場合、SSID、暗号化、暗号化キーは初期値に戻ります。

※SSID、暗号化キーは必ず入力してください。



ネットワーク

[ネットワーク]-[LAN設定/DHCPサーバ]-[IPv4]

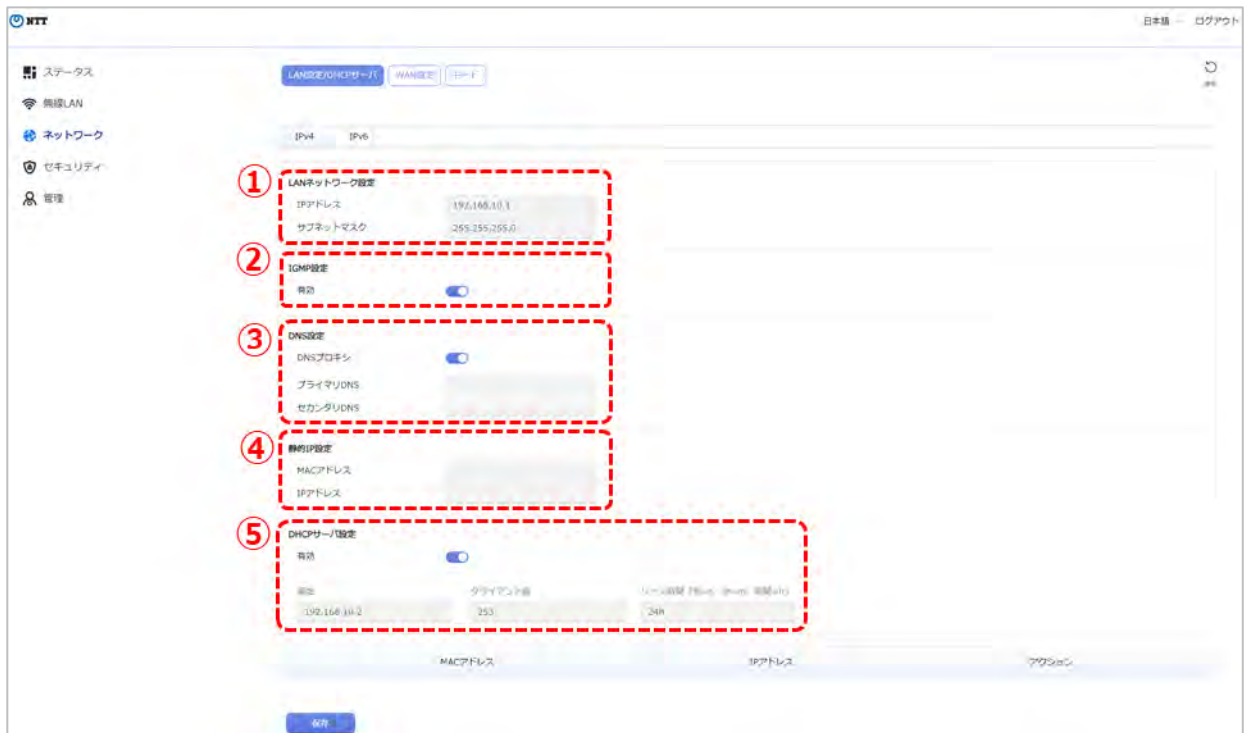
LANネットワークのIPアドレスやサブネットマスクの設定、DHCPサーバのIPアドレス割り当て範囲を管理できます。初期設定では、ネットワークアドレス（192.168.10.0）とブロードキャストアドレス（192.168.10.255）を除く最大253個のIPアドレスが割り当て可能な状態になっており、特別な理由がない限り設定の変更は必要ありません。DHCPサーバ設定の開始IPアドレスに指定したIPアドレス（192.168.10.2）からクライアント数の範囲で割り当てます。

- ① LANネットワーク設定
IPアドレス：LAN側のIPアドレスを設定
サブネットマスク：ネットワーク範囲を設定
- ② IGMP設定：マルチキャスト送信者と受信者間の接続を設定
- ③ DNS設定
DNSプロキシ：有効の場合、自動でDNS問い合わせをし、通信速度を最適化
プライマリDNS：プロキシを無効にする場合、設定可能
セカンダリDNS：プロキシを無効にする場合、設定可能
- ④ 静的IP設定

MACアドレス：固定IPアドレスを割り当てたいデバイスのMACアドレスを指定

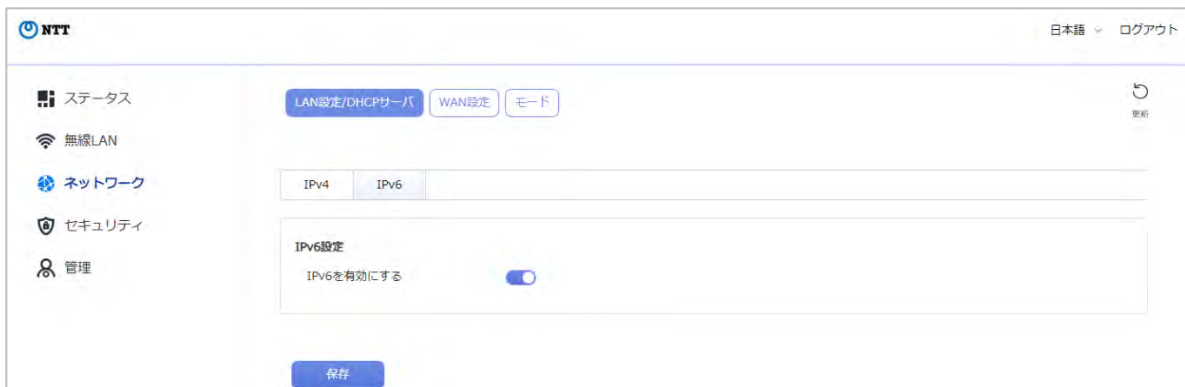
IPアドレス：対応するMACアドレスに割り当てる固定IPアドレスを指定

- ⑤ DHCPサーバ設定：LAN内のデバイスに自動的にIPアドレスを割り当てる機能



[ネットワーク]-[LAN設定/DHCPサーバ]-[IPv6]

IPv6の有効・無効を設定できます。



[ネットワーク]-[WAN設定]

IPv4 over IPv6方式でインターネット接続を利用するための設定です。

サポートするサービスは2ページの「[日本の主要なIPv6サービスに対応](#)」でご確認ください。

- ① IPv4 over IPv6：IPv6上でIPv4通信を行う機能
- ② 自動接続：IPv4 over IPv6の利用サービスを自動判別して接続する機能
- ③ 動作モード：②自動接続を無効にする場合、利用するサービスの指定が必要



※IPv4 over IPv6を無効にするとWANの詳細設定が有効になります。

説明：接続ポートの表示

インターフェースタイプ：WAN接続に使用するインターフェースを選択

サービスタイプ：使用するWANサービスの種類を選択

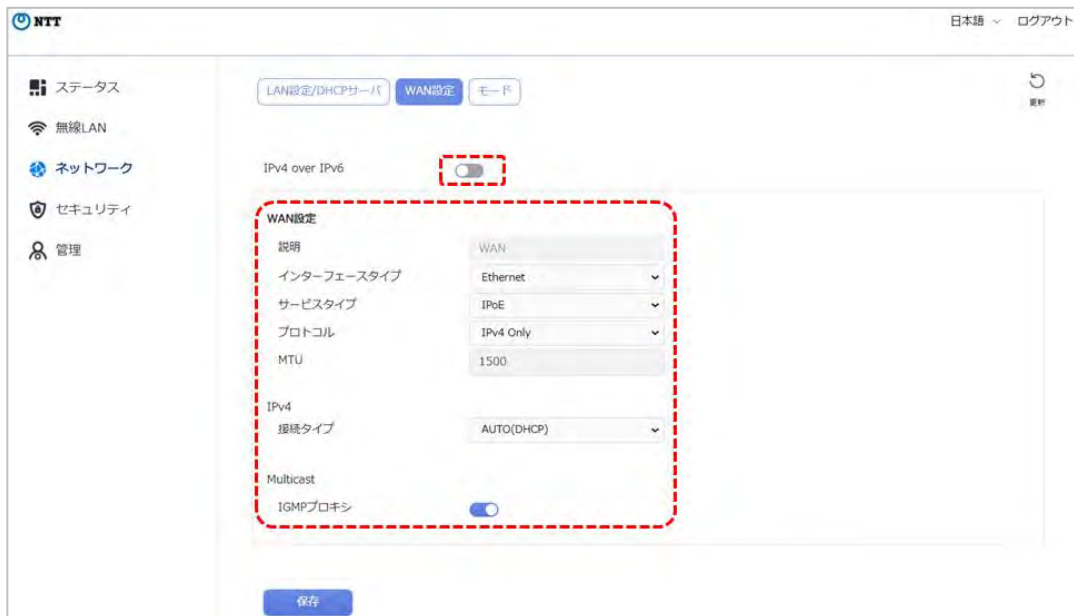
プロトコル：使用するIPプロトコルを選択

MTU：最大転送ユニットサイズを設定

IPv4接続タイプ：IPv4アドレスを取得する方法を設定

Multicast：

IGMPプロキシ：IPv4マルチキャストトラフィックを中継する機能



<PPPoEをご利用の場合>

PPPoE方式でインターネットへ接続される場合、プロバイダーから提供されている書類等に記載されているユーザー名、パスワードによる認証が必要となります。

- ① IPv4 over IPv6を「無効」に設定
- ② サービスタイプを「PPPoE」に設定
- ③ ユーザー名とパスワードを入力し、「保存」を押してください。

※設定が終わった後にもインターネットに接続ができず、[「ステータス」-「ダッシュボード」](#)（28ページ）に表示されている接続状態が、「オフライン」の場合は、ユーザー名とパスワードが誤っている可能性があります。再度プロバイダーからの書類等を確認して入力してから「保存」を押してください。

NTT

ステータス

無線LAN

ネットワーク

NAT

高度な設定

セキュリティ

管理

LAN設定/DHCPサーバ WAN設定 モード

① IPv4 over IPv6 ☒

WAN設定

説明

インターフェースタイプ Ethernet

サービスタイプ PPPoE

② ③ Protocol IPv4 Only IPv6 Only IPv4 over IPv6

ユーザー名

パスワード

MTU 1492

Multicast

IGMPプロキシ ☒

保存

NTT

ステータス

無線LAN

ネットワーク

NAT

高度な設定

セキュリティ

管理

LAN設定/DHCPサーバ WAN設定 モード

IPv4 over IPv6 ☐

WAN設定

説明

インターフェースタイプ Ethernet

サービスタイプ PPPoE

③ ④ Protocol IPv4 Only IPv6 Only IPv4 over IPv6

ユーザー名

パスワード

MTU 1492

Multicast

IGMPプロキシ ☒

保存

[ネットワーク]-[モード]-[モード設定]-[WAN接続タイプ]

WAN接続タイプには2つのモードがあり、上位に接続された機器に応じて選択します。ONUと接続する場合はルータモードを選択し、ホームゲートウェイと接続する場合はブリッジモードを選択します。

設定を変更して「保存」を押すと、本製品が再起動されます。再起動後、インターネットに接続されているか確認するには、前面のWPSランプが緑色に点灯しているかご確認ください。

* WAN接続タイプを変更すると、全設定がリセットされます。接続が切れた場合は初期値のIPアドレス・ルータパスワードで再接続してください。



[ネットワーク]-[モード]-[モード設定]-[メッシュタイプ]

メッシュタイプでは、メッシュネットワークの動作モードを変更できます。親機として設定したい場合はコントローラを、子機として設定したい場合はエージェントを選択してください。

* 同一ネットワーク内でコントローラ（親機）として設定できるのは1台です。Wi-Fiエリアの拡張のために2台目以降を設置する場合はブリッジを選択してください。（子機として接続できる台数は最大4台までです。）

設定を変更して「保存」を押すと、本製品が再起動されます。再起動後、インターネットに接続されているか確認するには、前面のWPSランプが緑色に点灯しているかご確認ください。

* メッシュタイプを変更すると、全設定がリセットされます。接続が切れた場合は初期値のIPアドレス・ルータパスワードで再接続してください。



NAT

※この項目は[ネットワーク] [WAN設定]からIPv4 over IPv6の設定を「無効」にした場合に表示され、各種設定ができるようになります。

[NAT]-[ポートフォワーディング]

ポートフォワーディングは、特定のポート番号宛の通信を別のアドレスの特定のポート宛へ自動的に転送することにより、外部からの特定のネットワークサービスやアプリケーションからのアクセスを許可する機能です。この設定により外部からのアクセスが可能になります。本機能は、セキュリティをしっかりと管理した上で利用することを推奨します。

*「v6コネク」[※]、「クロスパス」[※]、「transix」をご利用の場合、ポートフォワーディングを設定しても機能しません。

「v6プラス」[※]、「IPv6オプション」[※]、「OCNバーチャルコネク」[※]をご利用の場合、回線の仕様によりポートフォワーディング設定を行っても通信ができない場合があります。

「新しいルールを追加」を押すとポップアップが表示され、プロトコルとポートの種類を選択できます。



[NAT]-[DMZホスト]-[DMZホスト設定]

DMZホストは、家庭内の特定のデバイスを外部のインターネットから直接のアクセスを可能にする設定です。この機能を使うと、外部から家庭内のデバイスにアクセスしやすくなりますが、そのデバイスは保護されなくなるため、コンピュータウイルスへの感染や不正アクセスを受けるリスクが高くなります。セキュリティをしっかりと管理した上で利用することを推奨します。

*「v6コネク」[※]、「クロスパス」[※]、「transix」をご利用の場合、DMZを設定しても機能しません。

「v6プラス」[※]、「IPv6オプション」[※]、「OCNバーチャルコネク」[※]をご利用の場合、回線の仕様によりDMZ設定を行っても通信ができない場合があります。



高度な設定

※この項目は[ネットワーク] [WAN設定]からIPv4 over IPv6の設定を「無効」にした場合に表示され、各種設定ができるようになります。

[高度な設定]-[VPN]-[VPN設定]

VPN（バーチャルプライベートネットワーク）は、安全にインターネットを利用するための機能です。VPN設定を使うことで、外出先や出張先からでも、自宅やオフィスのネットワークに安全にアクセスできます。VPNを利用することで、インターネット通信が暗号化され、第三者からデータを盗まれるリスクを防げます。リモートワークを行う場合や、セキュリティを強化したい場合に役立ちます。

*「IPv4 over IPv6」をご利用の場合、VPNを設定しても機能しません。

L2TP/IPsecパススルー：L2TP（レイヤー2トンネリングプロトコル）とIPsec（セキュリティ強化のための暗号化）を組み合わせたVPN接続方式

PPTPパススルー：PPTP（ポイント・ツー・ポイント・トンネリングプロトコル）を使用したVPN接続方式



[高度な設定]-[DDNS]-[DDNS設定]

DDNS（ダイナミックDNS）は、家庭やオフィスのインターネット接続が頻繁に変わるIPアドレスを自動的に管理して、外部から固定されたアドレスでアクセスできるようにする機能です。通常、家庭用インターネット接続のIPアドレスは定期的に変更されますが、DDNSを利用することで、常に同じホスト名（例えば、youname.dyndns.org）でアクセスできるようになります。セキュリティ機能はしっかりと設定した上で利用することを推奨します。

*「v6コネクト」、「クロスパス」、「transix」をご利用の場合、DDNSを設定しても機能しません。

「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をご利用の場合、回線の仕様によりDDNS設定を行っても通信ができない場合があります。





セキュリティ

[セキュリティ]-[ポートフィルタリング]

ポートフィルタリングは、特定のポート（データの出入り口）を通じて行われる通信を許可またはブロックする機能です。この設定を使用することで、不要な通信やセキュリティリスクを減らすことができます。例えば、外部からの特定のサービスやアプリケーションへのアクセスを制限したい場合に、この機能を使って制御します。ネットワークをより安全に保つために、必要に応じてポートフィルタリングを設定してください。

「新しいルールを追加」を押すと、ポップアップが表示されて、プロトコルの種類を選択できます。



[セキュリティ]-[MACアドレスフィルタリング]

[接続されたデバイスの表示]をクリックすると、現在ネットワークに接続されているすべてのデバイスを一覧で確認することができます。



ホワイトリスト設定を有効にすると、登録されたMACアドレスを持つデバイスのみがWi-Fi接続できるようになります。次の通り使用するデバイスのMACアドレスを追加して設定を保存してください。

- ① 使用するデバイスのMACアドレスを入力します。
- ② 「+」をクリックしてMACフィルターリストに追加してください。
- ③ 設定を無効から有効に変更して、
- ④ 「保存」を押したら完了です。



[セキュリティ]-[アクセス制御]-[アクセス制御設定]

アクセス制御機能では、外部からの不正なアクセスを防ぐことができ、本製品がどのくらいのアクセス権を持っているかも管理できます。デバイスに対してアクセス制限を設けることにより、セキュリティを強化します。

ウェブ：WebUIへのアクセス権

ICMP：ネットワーク確認用のPING通信へのアクセス権

※注意：「ウェブ」のチェック(WebUIへのアクセス権)は、LAN側・WAN側、どちらか一方は必ず残すようにしてください。

両方のチェックを外してしまうと、WebUIでのアクセスができなくなり、設定変更等を行えなくなり、「工場出荷時設定に戻す」の操作でしか戻せなくなります。



管理

[管理]-[ルータパスワード]-[ルータパスワード設定]

本製品の設定画面にアクセスするためには、パスワードが必要です。この画面で、本製品の管理用パスワードを設定及び変更ができます。強力なパスワードを設定することで、外部からの不正アクセスを防ぐことができます。パスワードは英数字を組み合わせ、第三者が推測しにくいものを選ぶこと、また定期的にパスワードを変更することを推奨します。

※以下の3つ以上を含む9文字以上32文字以内のパスワードに設定してください。

：アルファベット大文字、小文字、数字、特殊文字（[! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [] ^ _ ` { | } ~]）



[管理]-[バックアップ]-[バックアップと復元]

バックアップ機能を使うと、本製品の設定を保存しておき、問題が発生した場合に簡単に元の状態に戻すことができます。トラブル発生時に役立ちますので設定を変更した後は、定期的にバックアップを取ることを推奨します。

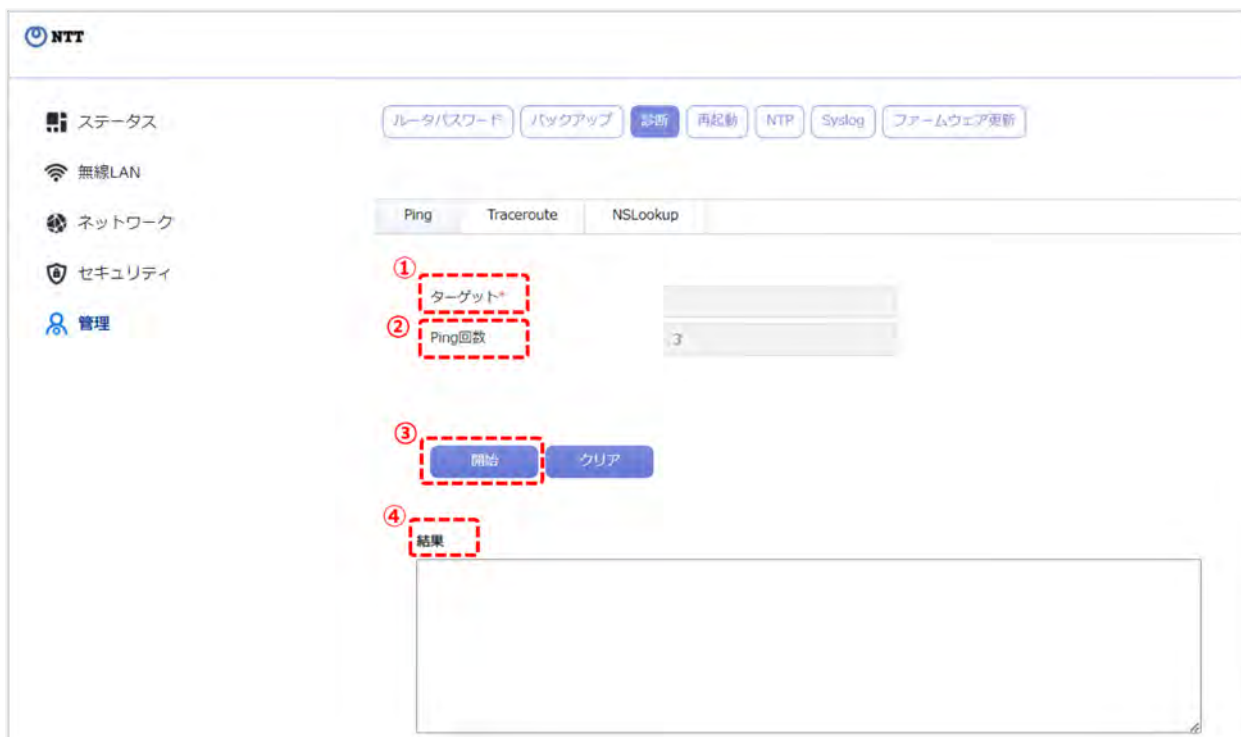
- ① 「ダウンロード」をクリックして設定が保存できます。
- ② 「ファイルを選択」をクリックして①で保存したファイルの中から、適用する設定のバックアップファイルをアップロードします。
- ③ その後「保存」を押すと、本製品が再起動されます。再起動後、インターネットに正常に接続されているか確認するには、前面のWPSランプが緑色に点灯しているかご確認ください。



[管理]-[診断]-[Ping]

Pingは、特定のIPアドレスにデータを送信し、その応答速度を確認するための機能です。この機能を使用することで、インターネットに正常接続されているか、または特定のデバイスに問題がないかをチェックできます。インターネット接続に問題がある場合や、デバイスの接続状態を確認したいときに使用します。

- ① ターゲット：PingテストをしたいFQDNやIPアドレスを入力します。
- ② Pingを実行する回数を入力します。
- ③ 開始を押すと、
- ④ しばらくして結果を確認できます。



[管理]-[診断]-[Traceroute]

Tracerouteは、データが目的地に到達するまでに通過するすべての本製品の経路を追跡する機能です。ネットワークの遅延や障害が発生した際に、どこで問題が発生しているかを特定するのに役立ちます。インターネット接続が不安定な場合に、この機能を使用して原因を特定することができます。

- ① ターゲット：TracerouteテストをしたいURLやIPアドレスを入力します。
- ② 追跡するMAX経路数を入力します。
- ③ 開始を押すと、
- ④ しばらくして結果を確認できます。

The screenshot shows the 'Traceroute' tab in the NTT management console. The interface includes a sidebar with navigation options: ステータス, 無線LAN, ネットワーク, セキュリティ, and 管理. The main area has tabs for Ping, Traceroute, and NSLookup. Below the tabs, there are input fields for 'ターゲット' (Target) and 'MaxTTL' (Max TTL), with a '30' value entered in the MaxTTL field. There are '開始' (Start) and 'クリア' (Clear) buttons. A '結果' (Result) section is at the bottom, which is currently empty. Red dashed boxes and numbers 1 through 4 highlight the input fields and buttons corresponding to the numbered steps in the text above.

[管理]-[診断]-[NSLookup]

NSLookupは、ドメイン名（例：www.example.com）とIPアドレスの結びつきを確認するための機能です。このツールを使うことで、インターネット上のドメインがどのIPアドレスと紐付けられているかを確認できます。ウェブサイトアクセスできない場合や、ドメイン名の問題を調査する際に役立ちます。インターネット接続が正常であることを確認するためにも使用されます。

- ① ターゲット：NSLookupテストをしたいURLやIPアドレスを入力します。
- ② 開始を押すと、
- ③ しばらくして結果を確認できます。

The screenshot shows the 'NSLookup' tab in the NTT management console. The interface is similar to the Traceroute tab, with a sidebar and main area. The 'NSLookup' tab is selected. There is an input field for 'ターゲット' (Target). Below it are '開始' (Start) and 'クリア' (Clear) buttons. A '結果' (Result) section is at the bottom, which is currently empty. Red dashed boxes and numbers 1 through 3 highlight the input field and buttons corresponding to the numbered steps in the text above.

[管理]-[再起動]-[再起動&工場出荷時設定に戻す]

「再起動」とは、本製品の電源を一度切ってから再び起動させる機能です。本製品が動作しない場合や、接続が不安定な場合に再起動すると、問題が解決することがあります。「工場出荷時設定に戻す」をクリックすると、本製品のすべての設定が初期状態に戻ります。工場出荷時の設定に戻すとカスタム設定やWi-Fi暗号化キーなどもすべてリセットされるのでご注意ください。また工場出荷時設定に戻す前に必要な情報をバックアップしておくことを推奨します。

再起動後または工場出荷時設定に戻した後、インターネットに正常に接続されているか確認するには、前面のWPSランプが緑色に点灯しているかご確認ください。



[管理]-[NTP]-[NTP設定]

NTP（ネットワークタイムプロトコル）は、本製品が正確な時刻を自動的に取得するための設定です。この機能を使うと、インターネット経由で標準時刻サーバから正確な時刻を取得し、本製品の時間を自動的に調整します。正しい時間設定は、本製品のログ管理やセキュリティ機能が正常に動作するために重要です。特別な理由がない限り、NTP設定は変更しないでください。



[管理]-[Syslog]-[設定]

Syslogは、本製品の動作状態、セキュリティ関連のイベントを記録する機能です。この設定では、ログの出力先やログの種類を指定することができます。

※モードが遠隔の場合、通信環境による影響が生じるため、正確なログ記録を保証するものではありません。



[管理]-[ファームウェア更新]

ファームウェア更新は、本製品が最新ファームウェアの有無を検知して自動で更新されますが、お客様自身で手動アップグレードすることも可能です。

※注意：アップグレード中は、電源を切ったり、ケーブルを抜いたりしないでください。正常に完了しない可能性があります。

アップグレードには10分～20分程度かかる場合があります。お時間に余裕を持って実施してください。

- ① 自動アップグレードでは設定されているアップグレード時間に製品が自動的にアップグレードされます。インターネットを使わない深夜の時間帯の設定を推奨します。

※VNE回線環境でIPv6/IPv4に設定すると自動アップグレードができませんのでご注意ください。



- ② 手動アップグレードは保存したファームウェアファイルを直接アップロードして更新する機能です。

ファームウェアを更新したら、本製品が再起動されます。再起動後、正常に接続されているか確認するには、前面のWPSランプが緑色に点灯しているかご確認ください。

1.最新のファームウェアをダウンロード

- 1-1.以下のURLにアクセスし、最新のファームウェア（FW）ファイルをダウンロードします。

(URL : https://web116.jp/ced/support/version/meshwifi/gigasmart_ar1344e/index.html)

- 1-2.ダウンロードしたファイルをお使いのパソコンや端末の分かりやすい場所（デスクトップなど）に保存してください。

2.[管理]-[ファームウェア更新]にアクセス

3.ファームウェアアップグレードを実施

- 3-1.「手動アップグレード」セクションにあるFileアイコン（フォルダマーク）をクリックします。

- 3-2.先ほどダウンロードしたファームウェアファイルを選択します。

- 3-3.Fileアイコンの右側にある「アップロード」をクリックします。

- 3-4.「アップロード」の表示が「ファイル処理中」から「更新」に変わるまでしばらく待ちます。

3-5.「更新」をクリックすると、ファームウェアのアップグレードが開始されます。

The first screenshot shows the 'アップグレード設定' (Upgrade Settings) page. The '自動アップグレード' (Automatic Upgrade) section shows the current version as v1.01.00 and the upgrade time as 03:00. The '手動アップグレード' (Manual Upgrade) section shows the 'アップロード' (Upload) button. A file explorer window is open, showing the file 'ファイル名 (AR1344e_NTT_v1.xx.xx_~_JP0.bin_cr)' selected.

The second screenshot shows the 'アップグレード設定' (Upgrade Settings) page. The 'アップロード' (Upload) button is highlighted. The status of the automatic upgrade is 'IP取得に失敗しました。' (IP acquisition failed).

The third screenshot shows the '手動アップグレード' (Manual Upgrade) page. The 'アップロード' (Upload) button is highlighted. The file name 'ファイル名 (AR1344e_NTT_v1.xx.xx_~_JP0.bin_cr)' is displayed, and the status is 'ファイル処理中' (File processing).

4. アップグレードの完了と確認

- 4-1. アップグレードが完了するまで10～20分ほどかかる場合がありますので、ACアダプタを抜かないでください。
- 4-2. ルータが自動的に再起動します。
- 4-3. 再起動後、管理画面に再度ログインし、「現在のバージョン」を確認してください。
- 4-4. 最新のバージョンが表示されていれば、アップグレードは成功です。

第3章 ご利用中困ったとき

Wi-Fi接続が不安定な場合

電波干渉がある可能性があります。

電子レンジやBluetooth機器などの他の無線機器が、2.4GHz帯域でWi-Fiと干渉することがあります。干渉があると通信が不安定になる場合があります。

対策：

1. チャンネルの変更：「[無線LAN]-[Wi-Fi2.4GHz]」または「[無線LAN]-[Wi-Fi5GHz]」設定の中の詳細オプションで、チャンネルを「自動」から任意の空いている固定チャンネルに変更してください。
2. バンドステアリングの有効化：「[無線LAN]-[メインWi-Fi]-[バンドステアリング]」で機能を有効にし、本製品が自動で最適な帯域に接続するよう設定します。

本製品との距離や障害物による問題の可能性があります。

本製品とデバイスとの距離が遠すぎる、または壁や家具などの障害物が電波を遮っている可能性があります。

対策：

1. 本製品の位置調整：できるだけ家の中央かつ平たい場所に設置し、電波が遮られない場所に設置します。
2. メッシュネットワークの活用：「[ネットワーク]-[モード]-[モード設定]」で「コントローラ」および「エージェント」を設定し、ネットワーク使用範囲を拡張します。

ネットワーク接続状況が過密である可能性があります。

多数のデバイスが同時に接続されていると、本製品の負荷が増え、通信が遅くなることがあります。

対策：

1. SSIDの分離：「[無線LAN]-[メインWi-Fi]-[バンドステアリング]」無効設定後、2.4GHzと5GHzのSSIDを別々に設定し、デバイスごとに接続先を分散させます。
2. 不要なデバイスの切断：「[ステータス]-[ダッシュボード]-[トポロジー]」で未使用のデバイスを確認し、接続を解除します。

メッシュネットワークが一時的に不安定になっている可能性があります。

メッシュネットワーク内の通信が不安定な場合、ネットワーク全体に影響を与えます。

対策：

1. エージェントの再起動：「[ネットワーク]-[モード]-[モード設定]」で各エージェントの動作を確認し、必要に応じて再起動します。
2. エージェントの距離調整：エージェントとコントローラの距離が適切であることを確認し、間隔を調整します。推奨離隔距離は1メートル以上5メートル以下です。

Wi-Fi接続が全くできない場合

動作モードの設定が間違っている可能性があります。

製品が適切なモード（ルータモードまたはブリッジモード）に設定されていないと、インターネットに接続できなくなります。

- 1.動作モードの確認と変更：「[ネットワーク]-[モード]-[モード設定]」で正しいモードを選択し、保存します。

製品のLANケーブルが正常に接続されていない可能性があります。

製品とONUまたは他のネットワーク機器との間で、LANケーブルが正しく接続されていない場合、通信が途絶えることがあります。

- 1.ケーブルの確認と交換：すべてのLANケーブルがしっかりと接続されているかを「[ステータス]-[ダッシュボード]-[トポロジー]」で確認し、LANケーブルが物理的に劣化している場合は交換します。

暗号化キーが間違っている可能性があります。

本製品に設定したSSID/暗号化キーと、各種デバイスに設定したSSID/暗号化キーが、一致しているか確認してください。

セキュリティ強化をはかるため、初期 暗号化キーはランダムで入力の難しい文字列になっています。各種デバイスで、タイプミスがないか確認してください。

また本製品のSSID/暗号化キー設定を変更されている場合、その設定変更の際にタイプミスをした可能性もあります。本製品に設定されたSSID/暗号化キーを、いま一度ご確認ください。

1.各種デバイス側での操作

- 1-1.本製品のWebUI「[ステータス]-[ダッシュボード]-[Wi-Fi]」に表示されるQRコードを、各種デバイスにてスキャンして接続してください。タイプミスのリスクなく設定が可能です。
- 1-2.各種デバイスに設定しているSSID/暗号化キーに誤りがないか、設定を再確認ください。

2.本製品側での操作

- 2-1.本製品に設定されているSSID/暗号化キーは下記で確認が可能です。

WebUIに接続し、[無線LAN]-[メインWi-Fi]-[Wi-Fi設定]

（暗号化キーを確認する場合は（）アイコンをクリック）

- 2-2.本製品に設定されているSSID/暗号化キーの修正・変更

※SSIDは1～32桁のASCII文字のみ設定可能です。

暗号化キーは8文字以上（空白は含めない）で設定してください。

MACアドレスフィルタリング設定が間違っている可能性があります。

MACアドレスフィルタリング設定を有効にしている場合、設定するMACアドレスを間違えると、そのデバイスはWi-Fi接続されなくなります。

あるいは、MACアドレスフィルタリング設定を誤って有効にしてしまった場合、すべてのデバイスが接続できなくなります。

MACアドレスフィルタリング設定を再度確認してください。

リカバリーモードで起動している可能性があります。

本製品は、起動中に想定外エラーが生じた場合等に、「リカバリーモード」で起動することがあります。この場合、[無線LAN]-[メインWi-Fi]-[Wi-Fi設定]-[Wi-Fi利用]がONにならず、Wi-Fi機能をご利用いただけません。

このような場合は、WebUI操作[管理]-[再起動]-[再起動&工場出荷時設定に戻す]、またはリセットボタンの長押し操作により、本製品をいちど工場出荷時設定に戻してから、再度設定を行ってください。

第4章 製品仕様

主な仕様

無線LANインターフェース	
準拠規格 (最大転送速度)	5GHz : IEEE802.11ax : 4804Mbps (160MHz 4x4) IEEE802.11ac : 3466Mbps (160MHz 4x4) IEEE802.11n : 300Mbps (40MHz 2x2) IEEE802.11a : 54Mbps 2.4GHz : IEEE802.11ax : 573Mbps (40MHz 2x2) IEEE802.11n : 300Mbps (40MHz 2x2) IEEE802.11g : 54Mbps IEEE802.11b : 11Mbps 表示の数値は理論上の最大値であり、実際の転送速度を示すものではありません。
伝送方式	多入力多出力直交周波数分割多元変調 (MIMO-OFDMA) 方式 多入力多出力直交周波数分割多重変調 (MIMO-OFDM) 方式 直交周波数分割多重変調 (OFDM) 方式 直接拡散型スペクトラム拡散 (DS-SS) 方式 単信 (半二重)
周波数範囲 (中心周波数)	5GHz : W52 36/40/44/48ch (5180~5240MHz) W53 52/56/60/64ch (5260~5320MHz) W56 100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch (5500~5720MHz) 2.4GHz : 1~13ch (2412~2472MHz) 本製品と同一の周波数帯を使用する製品がある場合、電波干渉により通信速度が遅くなるなどの障害が発生する可能性があります。
アクセス方式	インフラストラクチャーモード、中継機能
セキュリティ	WPA/WPA2-PSK (TKIP/AES) , WPA2-PSK (AES) , WPA2-PSK/WPA3-SAE (AES) , WPA3-SAE (AES)
有線LANインターフェース	
準拠規格	IEEE802.3ab (1000BASE-T) / IEEE802.3u (100BASE-TX) / IEEE802.3 (10BASE-T)
データ転送速度	1000/100/10Mbps (自動認識) 表示の数値は理論上の最大値であり、実際の転送速度を示すものではありません。
データ伝送モード	半二重/全二重 (自動認識)
端子	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 兼用端子 (AUTO-MDIX)
その他	
電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	11.0W(最大)
外形寸法	130x130x58mm (本体のみ)
質量	322g (本体のみ)
動作温度/動作湿度	0~40℃、10~85%(結露なきこと) * 本製品は屋内使用に限ります。

LED仕様

ルータモード

LED	色	点滅	点灯	消灯
	緑	起動中/ファームウェア更新中/ 初期化中	電源オン	電源オフ
WAN	緑	WAN 通信でデータを送・受信	電源が入っている ONU と AR1344E が WAN 通信で接続されている	LAN1/WAN ポート（青色）にデバ イスが接続されていない （WAN 通信接続されていない）
LAN	緑	LAN 通信でデータを送・受信	電源が入っているデバイスが LAN 通 信で接続されている	LAN2 ポート（黄色）にデバイスが接 続されていない （LAN 通信接続されていない）
2.4G	緑	Wi-Fi トラフィックを送・受信	2.4GHz Wi-Fi有効 または、 バンドステアリング有効	2.4GHz Wi-Fi無効 及び バンドステアリング無効
5G	緑	Wi-Fi トラフィックを送・受信	5GHz Wi-Fi有効 または、 バンドステアリング有効	5GHz Wi-Fi無効 及び バンドステアリング無効
WPS	緑	利用デバイスとの WPS 接続中 または、 メッシュ構築中 （最大 2 分間点滅）	【メッシュタイプ：コントローラ】 通常時	-

ブリッジモード

LED	色	点滅	点灯	消灯
	緑	起動中/ファームウェア更新中/ 初期化中	電源オン	電源オフ
WAN	緑	常に消灯		
LAN	緑	LAN ポートからデータを送・受信	電源が入っているデバイスが LAN2 ポ ート（黄色）に接続されている	LAN2 ポート（黄色）にデバイスが接 続されていない （LAN 通信接続されていない）
2.4G	緑	Wi-Fi トラフィックを送・受信	2.4GHz Wi-Fi有効 または、 バンドステアリング有効	2.4GHz Wi-Fi無効 及び バンドステアリング無効
5G	緑	Wi-Fi トラフィックを送・受信	5GHz Wi-Fi有効 または、 バンドステアリング有効	5GHz Wi-Fi無効 及び バンドステアリング無効
WPS	緑	利用デバイスとの WPS 接続中 または、 メッシュ構築中 （最大 2 分間点滅）	【メッシュタイプ：コントローラ】 通常時 【メッシュタイプ：エージェント】 コントローラに帰属	【メッシュタイプ：コントローラ】 - 【メッシュタイプ：エージェント】 コントローラに未帰属

第5章 各部の名称



LAN2ポート（黄色）

家庭内ネットワーク（LAN）に接続するためのポートです。このポートにパソコンなどのデバイスを接続します。

LAN1/WANポート（青色）

「ルータモード」でご利用時、インターネットに接続するためのポートです。このポートはモデムやONU（光終端装置）に接続され、本製品が外部ネットワークと通信を行います。

「ブリッジモード」でご利用時は、LAN2ポート(黄色)と同じ機能になります。

WPSボタン

このボタンは、メッシュネットワークの構築に使用されます。コントローラとエージェントを簡単に構成するためのペアリング操作を行う際に使用します。デバイスのWPS機能を有効にし、このボタンを押すことで、迅速にメッシュ構成が完了します。

※WPSボタン押下後は、接続が完了するまで各種設定を変更しないでください。設定を変更すると接続が完了できない場合があります。

リセットボタン

本製品を再起動する場合、または工場出荷時の設定に戻したい場合に利用するボタンです。

<再起動>

細い棒やクリップなどの尖ったものを利用し、このボタンを1回押して、すぐに離してください（5秒以内）。

<工場出荷時設定に戻す>

このボタンを、本体正面の電源ランプが一瞬消えてから点滅を始めるまで押し続けてください（約5秒）。その後、本製品が再起動し、設定が初期化されます。

本操作は、本製品が完全に起動した状態で実施してください。リセット直後、電源投入直後など、完全に起動していない状態で実施した場合には、正常に初期化されない場合があります。その場合は、再度、本製品が完全に起動した状態で、この操作をやり直してください。

ACアダプタ接続コネクタ

本製品の電源を供給するためのコネクタです。付属の専用ACアダプタをここに接続し、安定した電力供給を行います。

第6章 その他

本書について

本書は、本製品の利用方法、設定手順、安全上の注意点、およびネットワーク管理に関する全ての情報を提供するものです。本書の内容を熟読し、適切な使用方法を理解することで、製品のパフォーマンスを最大限に引き出し、トラブルを防止できます。

なお、技術の進化や法規制の変更に伴い、予告なく内容が変更される場合があります。本書の最新の情報は、当社のウェブサイトまたは製品のアップデート通知をご確認ください。また、設定方法や操作について不明な点がある場合は、お客様サポートまでお問い合わせください。

免責事項

本書の内容については、正確かつ最新の情報を提供するように努めておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本製品の使用により生じた結果について、当社は一切の責任を負いかねます。具体的には以下のような状況でも、当社は責任を負いません。

- I. ネットワーク障害によるデータ損失：本製品を使用することで発生した接続不良やデータ損失に関して、当社は補償いたしません。
- II. 第三者からの不正アクセス：適切なセキュリティ設定を行わなかった場合に生じる不正アクセスや情報漏洩に関しては、当社は責任を負いません。
- III. 環境要因による製品の動作不良：使用環境や周囲の無線干渉によって生じる性能低下や通信の中断についても、当社の保証範囲外となります。

商標・登録商標

本書および製品に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。特に記載のない限り、これらの商標権は該当する所有者に帰属します。本書の記載内容は、著作権法によって保護されています。無断での複製、転載、または改変を禁止いたします。

また、本製品の商標やロゴは、当社およびその関連会社の所有物であり、これらを使用する場合は事前の許可が必要です。他の商標やブランド名も、それぞれの所有者の権利を尊重し、適切に取り扱ってください。

お問い合わせ先

当社ウェブサイトでは、各種製品の最新の情報やバージョンアップサービス等を提供しています。本製品を適切にご利用いただくため、定期的にご覧いただくことを推奨します。

- NTT東日本エリア（北海道、東北、関東、甲信越地区）で「フレッツ光」をご利用のお客様は「開通のご案内」に記載の連絡先へお問い合わせください。